



# 子どもの居場所事業 実施体制

小学生の居場所  
(学習支援・食育・音楽事業)

寺子屋事業業務委託

川崎市教育委員会

謝金

- ・地域交流 (大人/学生/子ども)
- ・地域の居場所
- ・学習補習・子ども食堂・音楽
- ・保護者向け子育て相談

**NPO法人  
地域で子どもを育む会**

- ・ヤングヘルスプログラム
- ・情報提供
- ・人材 (ボランティア提供)

むすびえ

発信

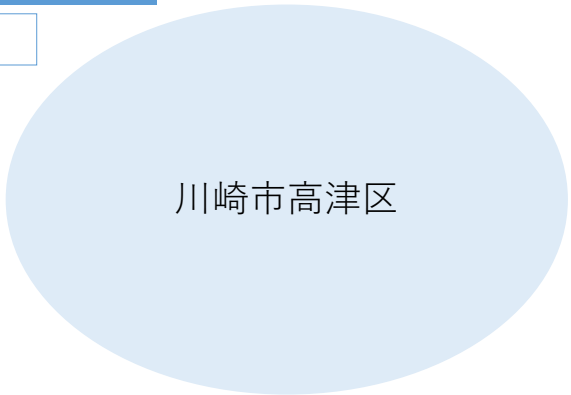
孤独孤立  
対策  
地域協議会

発信

**NPO法人  
地域で子どもを  
育む会**

- ・フードバンク神奈川
- ・コストコ座間店

食料提供



川崎市高津区

発信

ソーシャル  
デザイン  
センター

- ・高津区内の横のつながり
- ・地域イベントの共同開催
- ・情報提供

発信

- ・社会福祉協議会
- ・町内会
- ・民生委員

- ・ボランティア保険
- ・情報誌にてお知らせ
- ・地域住民へ提示

洗足音楽  
大学  
秋山ゼミ

- 子ども向け  
音楽活動

# シングルマザーハウス With プロジェクト【民民連携】

事業の実施機関	認定特定非営利活動法人宝塚NPOセンター
対象地域	宝塚市

## 連携先の実施機関

生活協同組合コープこうべ（生活協同組合）、株式会社ベストバイ（株式会社）、学校法人 関西大学住環境デザイン研究室（学校法人）、まちづくり協議会、兵庫県立人と自然の博物館

## 取組の内容

<https://with.hnpo.net/>

### 取組みの内容

休眠預金を活用し古いアパートをリノベーションしシングルマザーハウスを建築しました。4戸のうち3戸をシングルマザーに貸し、1戸をコミュニティルームとして地域に開く部屋にしています。ソフト支援のうちの1つ食料支援では、生活協同組合コープこうべが食品を週2回提供。また、家電の提供を申し出てくれている（株）ベストバイは、家電提供から発展しシングルマザーハウスの近隣の空き家を買取りシングルマザー支援を開始される予定です。そのハウスの母子に対するソフト支援（就労支援・心理支援・食料支援など）は協働で当センターが実施することになっています。コミュニティルームを子どもの居場所として活用するため、関西大学の建築学科の学生が内装を考え、子ども支援には、神戸女子大学の学生が関わってくれるなど若い人も支えてくれています。

### 取組にあたって苦労、苦慮した内容

シングルマザーハウスを軸として、様々な主体が動き出し思いもかけない展開に走り出しています。活動者が多岐に渡り、まだ、一堂に会することはできていない。

### 取組みの効果

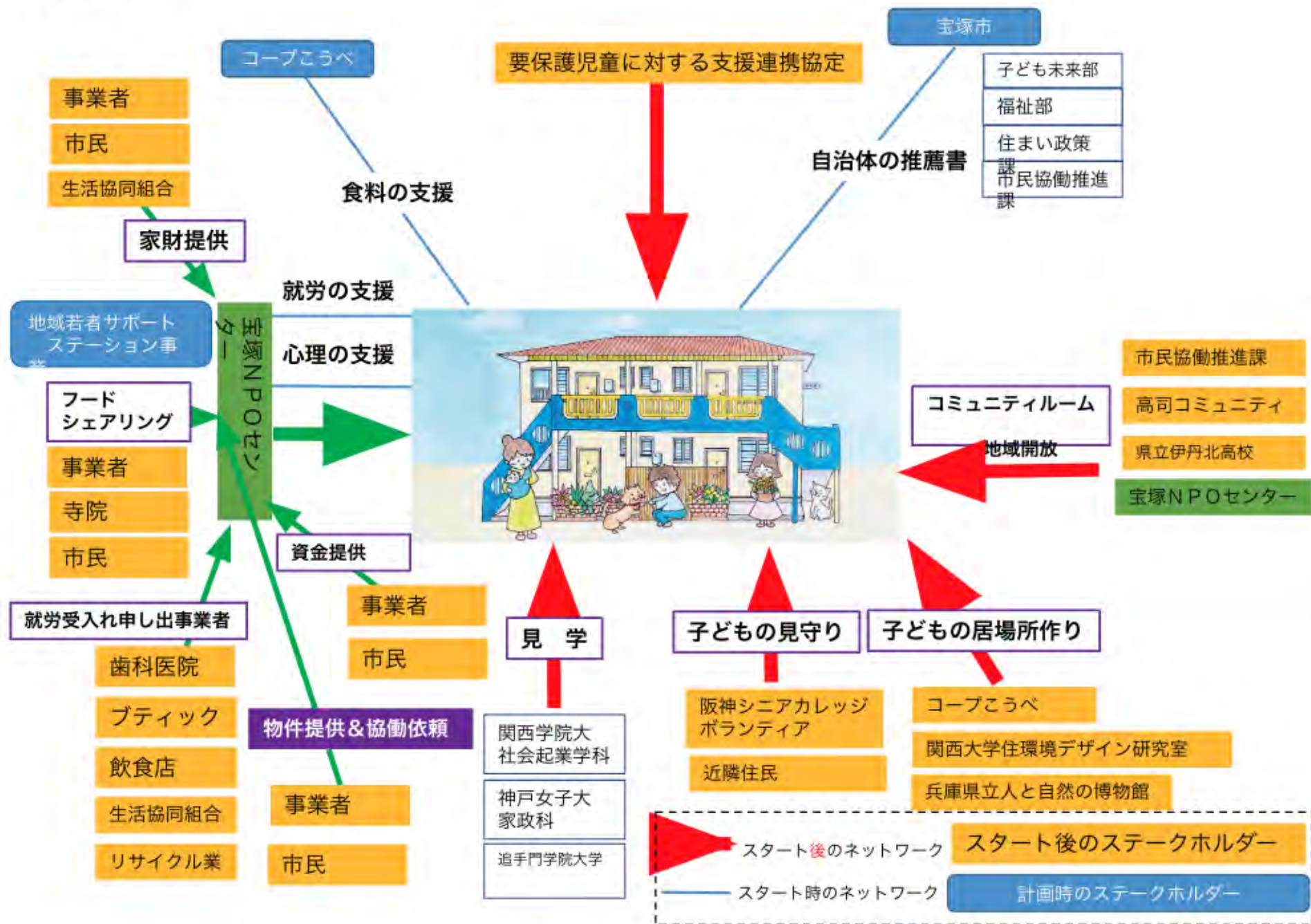
最初に考えていたシングルマザーの支援は、食料支援・就労支援・心理支援のみだったが「コミュニティルーム」を作ったことで、地域の方が関わり大学生も関わってきています。この建物が生んだ大きな効果だと考えています。

## ライフステージの区分

子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
		●	●						●		4







# 母子家庭を対象とした相談、交流事業【官民連携】

事業の実施機関	特定非営利活動法人リトルワNZ
対象地域	東京都内

## 連携先の実施機関

特定非営利活動法人コレクティブハウジング社（特定非営利活動法人）、一般社団法人ココロバランス研究所（一般社団法人）、企業複数社（民間企業）、杉並区（地方公共団体）、沖縄県母子寡婦福祉連合会（公益社団法人）

## 取組の内容

<https://onl.sc/nLbaLwT>

### 取組みの内容

リトルワNZは、エンパワーメント団体（A）と母子家庭と子供たちを支援する団体など（B）および行政（C）と連携し、孤独・孤立状態にある母親、子供たち（D）を対象に、体験型イベントや学習機会を通じたコラボレーションを実行しています。エンパワーメント団体は、アスリート、パフォーマー、アーティストなど個人、企業、団体など母子家庭と子供たちに対しての体験を支援団体と連携して、提供することに同意し、母子家庭と子供たちに不利益な行動を取らないなど法的締結を結んだ組織体を指します。

連携の成果として、Aは、「自主事業を通じた社会課題への参加」と「ルールに則った支援団体とのコラボレーション」を学び、CSRやSDGS、そして個人、企業のブランドを加味したかたちで、子供や女性支援に継続的に参加ができる技術を得られます。従来、社会課題への参加が制限されていた個人、企業にとっては貴重な機会であり、彼ら自身も体験を通じて構築することになります。

また、Bは「Aとの連携の経験とアプローチのノウハウの構築」「幅の広い活動への参加」が可能になります。人的、経済的なリソースや経験不足で、企業や団体にアプローチできなかった団体は、このプロジェクトを通して、多くの企業や団体とのイベントに参加が可能になり、かつ企業や団体へのアプローチの方法も、「レクチャー」を通して学ぶことになります。今後はBとAが単独でコラボレーションを実施することが可能になります。Cは、単体ではアプローチできなかった層に民間との連携を通してつながることができ、民間との連携により新たなノウハウを獲得できます。このプロジェクトは、それぞれの強みをいかした役割分担です。単体で実施すると、営利や思想の押し付けを避けなかったり、支援に繋げることができなくなります。Dは、多様で多彩な文化に触れることが可能になり、子供の教育を大きく促進するとともに、頼れる社会的資源を増やすことにも繋がります。本事業の目的は、母子家庭と子供たちの社会的資源を多様な主体との連携により増やし、それにより、母子家庭と子供たちの孤独、文化的な制限を解決することにあります。

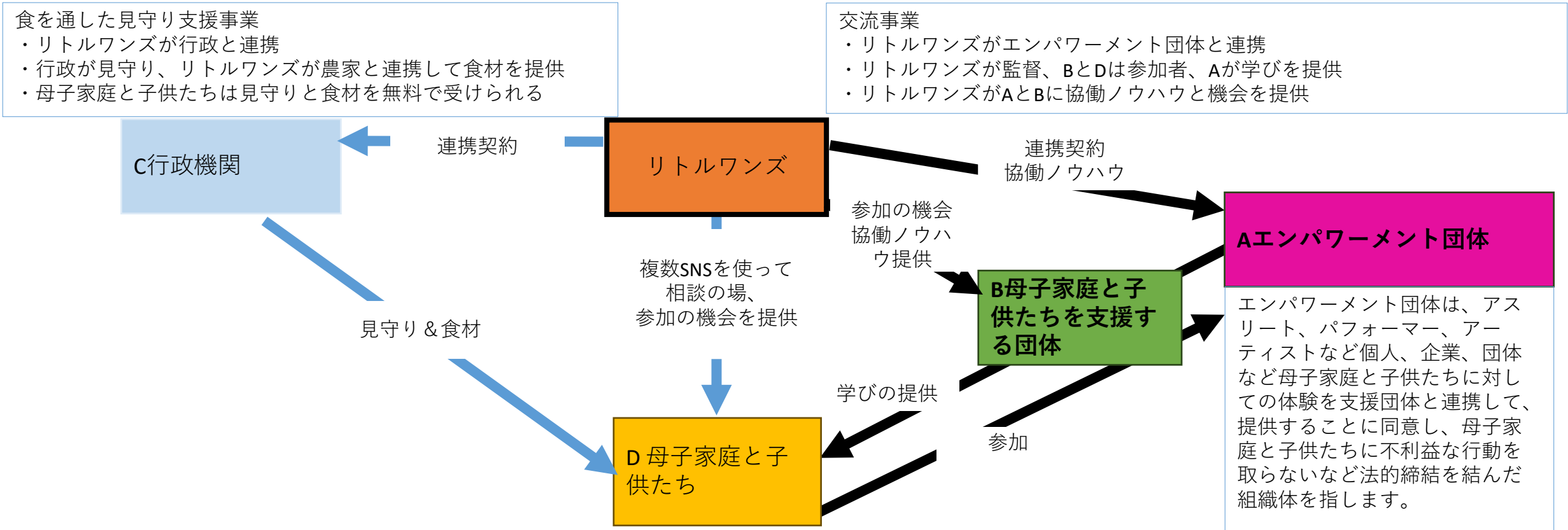
<p>取組にあたって苦労、苦慮した内容</p>	<p>○苦労</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業は営利を求める存在のため、営利を求めると支援を行うことの折り合いを作ることが難しい。</li> <li>・営利ではないことを理解してもらうため、企業内でセミナーを開いたり、上席に説明をしたりを行うが、それでも理解や妥協点を見つけられず頓挫することもある（10社きたら成功率は5社ほど）。</li> <li>・営利だけを求めてきて、コラボレーションができない場合もある。</li> <li>・行政はスポーツや飲食をレクリエーションと考えがちなので、理解をしてもらうために手間取る。</li> </ul> <p>○問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金や助成金が、支援団体→補助事業者（文化芸術団体、環境団体など）ならば支援の道筋になるが、この道筋が逆の場合も多く、支援団体がただの集客に使われることが多い。</li> <li>・日本では、いまだに企業、行政との協働のノウハウをもつ団体が少ないうえ、偏っている。</li> </ul>
<p>取組みの効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子家庭と子供たちに幅の広い社会的資源を提供できました。</li> <li>・母子家庭と子供たちに文化的な貧困の解決を提供できました。</li> <li>・相談のフックを複数もつことができ、あらゆる母子家庭と子供たちからの相談に対応できました。</li> <li>・マニュアルを作り、他団体にもノウハウを提供できました。</li> <li>・企業も社会的支援に参加しやすくなりました。</li> <li>・企業に社会的支援のNGを伝えられた。</li> <li>・行政に民間との連携の方法法を福祉以外の枠組みで伝えられ、実践できた。</li> </ul>

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
	●	●	●	●				●	●		



# 母子家庭を対象とした相談、交流事業 NPO法人リトルワンズ

リトルワンズは、エンパワーメント団体（A）と母子家庭と子供たちを支援する団体など（B）および行政（C）と連携し、孤独・孤立状態にある母親、子供たち（D）を対象に、体験型イベントや学習機会を通じたコラボレーションを実行しています。エンパワーメント団体は、アスリート、パフォーマー、アーティストなど個人、企業、団体など母子家庭と子供たちに対しての体験を支援団体と連携して、提供することに同意し、母子家庭と子供たちに不利益な行動を取らないなど法的締結を結んだ組織体を指します。



## 本事業の目的

①母子家庭と子供たちの社会的資源を多様な主体との連携により増やし、それにより、②母子家庭と子供たちの孤独、文化的な制限を解決することにあります。そのプロセスの中で、A、B、Cは連携するノウハウを学び、地域でそれぞれが実践できるようになります。

## やるとダメなこと！

①学びが少ないこと②ルールと契約がなく行うこと③営利や特定の思想を主眼にすること④ノウハウをシェアしないこと⑤参加者が楽しくないこと⑥単体で行わない

# 脳卒中障害者のためのメイクセミナー【民民連携】

事業の実施機関	特定非営利活動法人ドリーム
対象地域	名古屋市

## 連携先の実施機関

特定非営利活動法人ドリーム（特定非営利活動法人）、特定非営利活動法人あなたの声（特定非営利活動法人）、株式会社コーセー（株式会社）、公益財団法人公益推進協会（公益財団法人）

## 取組の内容

<https://npo-dream.org/news/3982/>

### 取組みの内容

2023年10月29日、脳卒中の後遺症（運動麻痺、高次脳機能障害など）のある脳卒中障害者のため、後遺症により病前のようにメイクができなかったり、メイクをすることを諦めてしまった人に、プロのメイクアップアーティストから後遺症があっても上手にメイクできるコツを学べるイベントを実施。企画のきっかけは、脳卒中障害者の生の声。「脳卒中を発症してからメイクをしなくなった」「百貨店などに行く勇気がなくてメイクの相談ができない」「片手だから諦めた」「片手だと目元が難しくできない」「看護師さんがきれいにメイクしているのを見るたび辛い」など沢山の声を受けて企画したもの。メイクをきっかけに外出が増えたり交友関係が広がるなど、社会参加の機会増加につなげ、前向きになってもらうことができました。対象は、脳卒中障害者であれば誰でも無料で参加可能としています。企画はNPO法人ドリーム、スキンケアやメイクは(株)コーセー、言語障害へのサポートはNPO法人あなたの声、費用は（公財）公益推進協会と、4団体がそれぞれの強みを活かして実施されました。

### 取組にあたって苦労、苦慮した内容

- ・費用の確保。
- ・他業種の企業を巻き込む場合、その障害や課題への理解をしてもらう必要があります。直接的に普段から活動している私たちと、そうでない人との距離や理解をどのように合わせていくのかに注力しました。
- ・広報を行う（チラシ・PR）にあたり、各団体での表現などがあり、そういった部分での共有や意思疎通を想定以上しておく必要性を感じました。例えば、「障害」と「障がい」を表記に関しては、企業イメージにも関わるなどの理由もあり、本社での確認や承認が必要ということもあり、余裕を持った日程での企画が望ましい。

### 取組みの効果

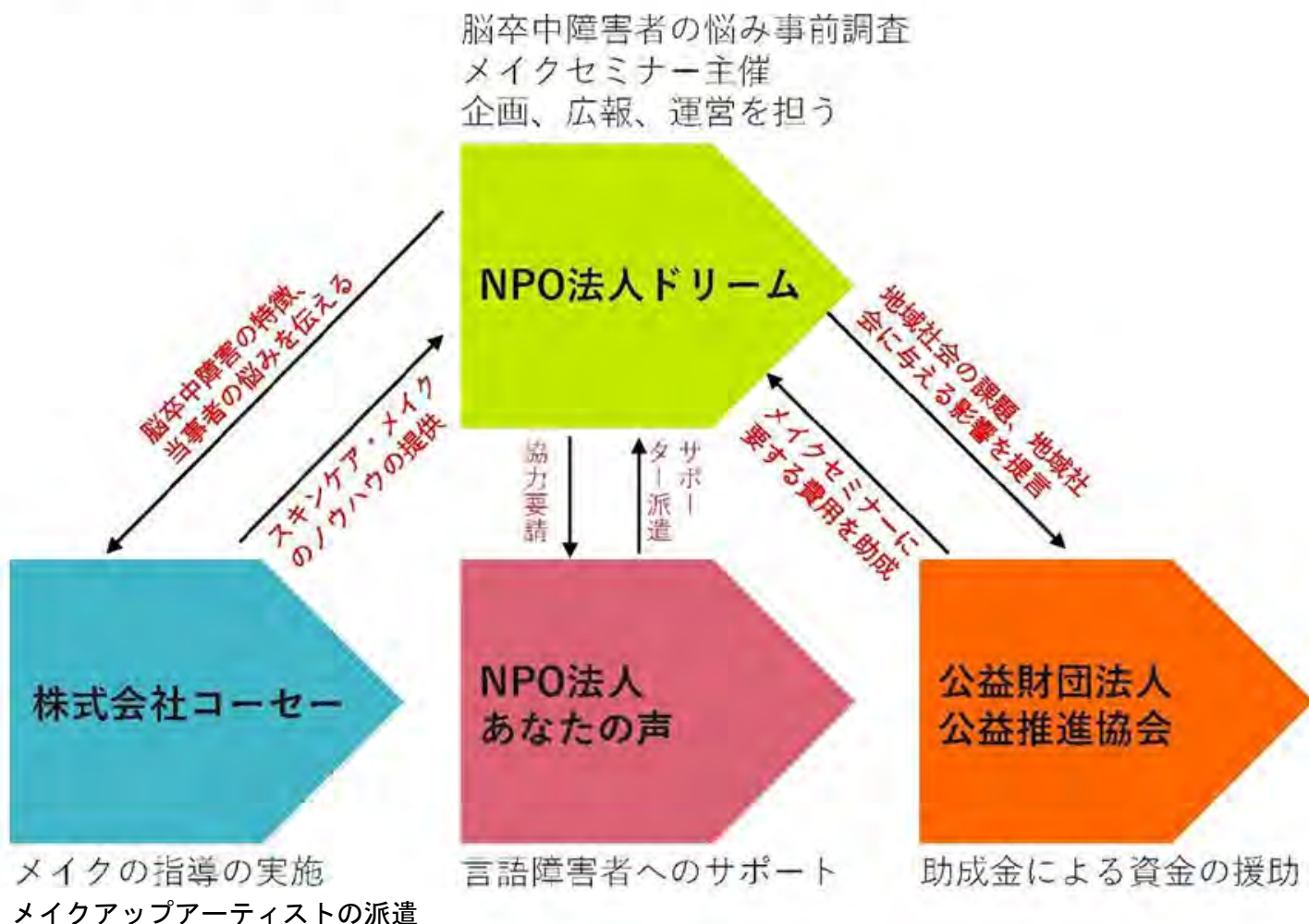
参加者からは、「本当に参加をしてよかった、すごく楽しかった」「病気を発症してからメイクを諦めていたけど明日から化粧する！」「今まで目元メイクができなかったけどやり方を教えてもらって出来るようになった」「外に出るときに化粧が出来ると思うと、外出が楽しみになった」「同じ脳卒中の人同士で交流できて嬉しかった」との声が寄せられました。医療機関、個人のセラピストなども複数人が見学を希望し、こういった支援を地域社会で実施できるようになりたいと言っていました。(株)コーセーの商品デザイン部の方々が、障害者でも使用しやすいパッケージを開発するため、直接に障害者にヒアリングを実施していました。このイベントは中日新聞にも掲載され、SNSでは、こういった企画を待っていたので●●県でもやってほしいという要望が数件寄せられました。

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
											●



## 実施体制図：脳卒中障害者のためのメイクセミナー

脳卒中を発症すると、片麻痺や高次脳機能障害、半側空間無視などの様々な後遺症が残る方がいる。発症前まではできていたことが、発症後思うようにできなくなることもあり、悩んでしまうケースが多い。そんな脳卒中障害者の方から寄せられたメイクに関する悩みを解決するため、脳卒中障害者のためのメイクセミナーを開催。脳卒中障害者なら誰でもメイクを学ぶことのできる機会を地域に創るため、NPO法人ドリーム、(株)コーセー、NPO法人あなたの声、(公財)公益推進協会の民間連携により実現にいたった。



### 【開催におけるポイント】

- 脳卒中の啓発がしやすい、脳卒中月間（10月）、世界脳卒中デー（10月29日）に開催
- 事前に、当事者へのヒアリングを実施して、どんなことに悩んでいるかを調査。ヒアリングは対面だけではなく、SNSなどを活用して県外からも多数の意見を集約。
- 4団体がそれぞれの強みを活かして役割を分業。参加者だけでなく、4団体それぞれにもメリットが得られるように企画。
- 約100団体に情報を発信してPRに協力要請。多くの団体がチラシの設置や声掛け、SNSなどでPRに協力してくれた。医療機関や施設などから、メイクセミナーの情報を得ての申込みや体験希望が多かった。
- 計画的に、広報を展開。テレビ愛知からは問い合わせがあったが取材には至らなかった。中日新聞は取材、掲載にいたった。
- コーセーの商品開発部によるヒアリングを実施し、半身麻痺など障害があっても使いやすい化粧品開発につなげることができた。



# 参考資料：HPにおける啓発

## 脳卒中障害者のためのメイクセミナー 開催しました

10月29日の世界脳卒中デーに、脳卒中障害者のための『私にもできる頑張りすぎない、いまいきメイクセミナー』を名古屋で開催しました。

この企画は、「(公財)公益推進協会 横寺敏夫 患者と家族の支援基金」の助成、化粧品メーカー「株式会社コーセー」の全面協力、「NPO法人あなたの声」の失語症者サポートにより開催する事が出来ました。

脳卒中を発症すると、運動障害、失語症、高次脳機能障害、半側空間無視など、様々な後遺症が残る方がいます。発症前まではできていたことが、発症後思うようにできなくなることもあり、悩んでしまうケースが多いのです。しかし、そのすべてが治療やリハビリで治るわけでも、医療保険や介護保険のサービスでカバーできる訳でもないのです。

後遺症により困る生活場面の一つが化粧やスキンケアです。メイクセミナー開催のきっかけは、脳卒中障害者の方から寄せられたメイクに関する悩みでした。何人かに聞いてみると、多くの方がメイクに関して悩んでいることを知りました。

「片手しか動かないからうまくメイクが出来ない」

「目元のメイクがどうしても…アイラインやビューラーは諦めた」

「眉など左右のバランスを整えることが難しい」

「百貨店などに行く勇気がなくてメイクの相談ができない」

本当にたくさんの方が化粧やスキンケアで悩みを抱えていることが分かりました。さらには、化粧をすること自体を諦めてしまったという方も少なくありませんでした。

このような背景を受け、脳卒中障害者なら誰でもメイクを学ぶことのできる機会を地域に創るため、今回の企画を実施することになりました。

参加者は28名、見学や企画側の人も含めると約60名。参加者は3～4人のグループに分かれ、コーセーの化粧品を使って実戦形式で進行。メイクセミナーの講師はコーセーの林さんを中心に、チームで対応してくれました。メイクとスキンケアの技術やコツを分かりやすく教えてくれるだけでなく、「クリームは麻痺側の手へのせて動く方の手で…」など、脳卒中の後遺症に配慮したアドバイスも盛り込んでくれました。まさに「脳卒中障害者のためのメイクセミナー」です。参加者がどんどん笑顔になって元気になっていく姿を見て「化粧の力」を実感しました。最後にはコーセーの化粧品7点セットを参加者にプレゼント。これには会場から拍手が沸き起こりました。

NPO法人あなたの声からサポートに来てくれた会話パートナーも大活躍で、脳卒中障害者の皆さんをサポートしてくれました。会話パートナーさんの的確なサポート、協力なくしてこの企画は成り立ちませんでした。本当にありがたい！

メイクの実践をした後は「容器ヒアリング」を実施。これは、脳卒中障害者の人が障害があっても使いやすい化粧品を開発するため、コーセーの商品デザイン部の担当者が参加者にヒアリングを実施する、というものです。参加者らは、日頃から化粧について悩んでいる気持ち、困っていることをたくさん話してくれました。脳卒中を発症した人にしか分からないこと、とても貴重は意見だと思います。よりよい容器デザインの開発のために自分たちの経験や思いを教えてくれた参加者の方、そしてその気持ちに全力で応えてくれたコーセーの皆さん、本当にありがとうございます。

参加者からは、たくさん喜びの声が聞かれました。

「本当に参加をしてよかった、すごく楽しかった」

「病気を発症してからメイクを諦めていたけど明日から化粧する！」

「今まで目元メイクができなかったけどやり方を教えてもらって出来るようになった」

「外に出るときに化粧が出来ると思うと、外出が楽しみになった」

「同じ脳卒中の人同士で交流できて嬉しかった」

今回は「世界脳卒中デー」「脳卒中月間」という、脳卒中の啓発が世界中で行われる日に開催をしました。メイクセミナーの開催は、脳卒中障害の理解を地域に広げるきっかけにもなりました。

そして何より、メイクの力で皆を笑顔にすることができました。

こうやって、脳卒中障害のある方が社会参加することのできるきっかけを創り、医療や福祉だけではなく企業とも連携した優しい地域創りを実践していきたいなと思える一日でした。



2023年(令和5年)11月3日(金曜日)

# 市民版

脳卒中障害者らの  
孤立防ぐセミナー  
中区でNPO  
「世界脳卒中デー」の10  
月29日、脳卒中障害者とそ  
の支援者ら向けの「私にも

できる頑張りが足りない、い  
まいきメイクセミナー」が  
中区大井町のイーブルなご  
やで初めて開かれた。

脳卒中障害者を支援する  
NPO法人ドリームが主  
催。化粧品メーカー「コー  
セー」が、セミナーの進行や  
化粧品の提供で協力した。

当事者やリハビリを指導  
する人など計29人が参加。  
コーセー社員のアドバイス  
を受けながら、アイライン  
を引いたり、顔に化粧クリ  
ームを塗ったりして、楽し  
くメイクのコツを学んだ。

脳卒中により、うまく言  
語が話せなくなったり、片



胸が動かせなくなったりし  
て外出しにくくなる人は少な  
くないという。ドリームの  
加賀屋圭太事務局長(39)は  
「メイクを通して、楽しさを  
いきがいを感じてほしい。  
孤立する人が少しでも減れ  
ばうれしい」と期待した。

## ■ 備考

その他、今回の取組が様々なところで紹介。

※もしくは紹介予定

- ・脳卒中看護認定看護師による看護学会の講演
- ・NPO法人あなたの声の会報誌
- ・株コーセーの社内報
- ・介護美容のを取り組んでいるセラピストのSNS
- ・回復期病院のHPや会報
- ・日本脳卒中協会のSNS
- ・自費リハ施設のSNS
- ・facebook上の脳卒中コミュニティ など



# ゲートキーパー育成・支援のための全国モデル創造事業【官民連携】

事業の実施機関	特定非営利活動法人LightRing.
対象地域	全国

## 連携先の実施機関

厚生労働省社会・援護局総務課自殺対策推進室（省庁）、SMB C日興証券株式会社（株式会社）、国立大学法人東京大学（国立大学法人）、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター（国立研究開発法人）、Zoomビデオコミュニケーションズ（株式会社（米国サンノゼ本社CSR事業 Zoomcaresと））

## 取組の内容

<https://lightring.or.jp/>

### 取組みの内容

自殺・孤独孤立防止のため、11年間の支援実績を活かし、「子ども若者ゲートキーパー育成支援」に専門性を置いた全国モデル形成に注力しています。その支援結果として、門番としての自殺を止めることのできる子ども若者ゲートキーパーの増加により、身近な友人等の自殺念慮者/企図者の孤独や孤立を防ぎ、現実的な自殺減を目指します。

- ① 下記活動に従事する若者ピアスタッフ育成講座
- ② オンラインゲートキーパー養成研修/支援コミュニティringSの運営
- ③ ②事業の心理尺度を用いた効果測定
- ④ ゲートキーパー支援を目的とした支援団体の全国ネットワーク形成
- ⑤ オープンチャットを用いたゲートキーパーのための相談居場所運営（24h365日）

### 取組にあたって苦勞、苦慮した内容

「友人等の悩みを受け止める子ども若者」を支援する必要性が有るが、使用できる制度がなく未だ行政職員や支援専門職と連携・協力することが極めて困難です。（事業NO ⑤）

### 取組みの効果

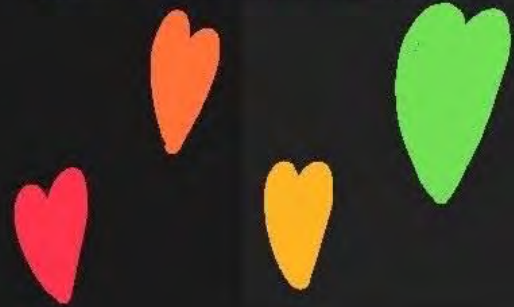
本活動の特徴として受講者全員が友人等の希死念慮を受け止めるゲートキーパーである点。30代以下、19歳以下参加者が7%存在し、20代参加者が最も多く68%を占める点にあります。さらに、具体的に友人や兄弟等の10代同世代の自殺を止めた例も多数報告を受ける実態にあります。

## ライフステージの区分

子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
			●	●	●	●		●			15



第6回 rings



Light Ring.



2023.12.10

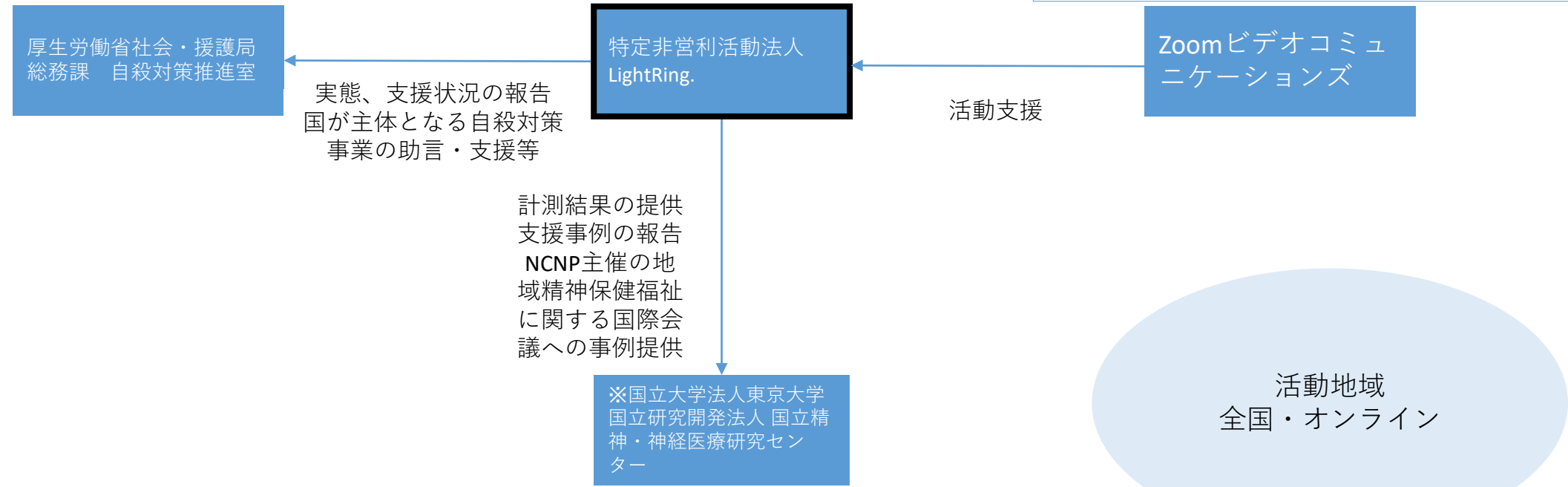
# 全国子ども・若者ゲートキーパー育成・支援モデル事業 実施体制

自殺・孤独孤立防止のため、11年間の支援実績を活かし、「子ども若者ゲートキーパー育成支援」に専門性を置いた全国モデル形成に注力しています。その支援結果として、門番としての自殺を止めることのできる子ども若者ゲートキーパーの増加により、身近な友人等の自殺念慮者/企図者の孤独や孤立を防ぎ、現実的な自殺減を目指します。

- ①下記活動に従事する若者ピアスタッフ育成講座 ② オンラインゲートキーパー養成研修/支援コミュニティringSの運営 ③②事業の心理尺度を用いた効果測定  
④ゲートキーパー支援を目的とした支援団体の全国・国際ネットワーク形成 ⑤オープンチャットを用いたゲートキーパーのための相談居場所運営（24h365日）

※連携機関の役割と活動内容など  
・事業No①～⑤全体の広報連携等

※連携機関の役割と活動内容など  
・事業No①②の運営に関するZoomアプリケーションのライセンス無償提供  
・事業No④ZoomCaresを通じた国際ネットワーク形成



※連携機関の役割と活動内容など  
・事業No③の尺度開発、解析  
・学会発表  
・論文作成等による支援方法の可視化  
・報告書への助言等



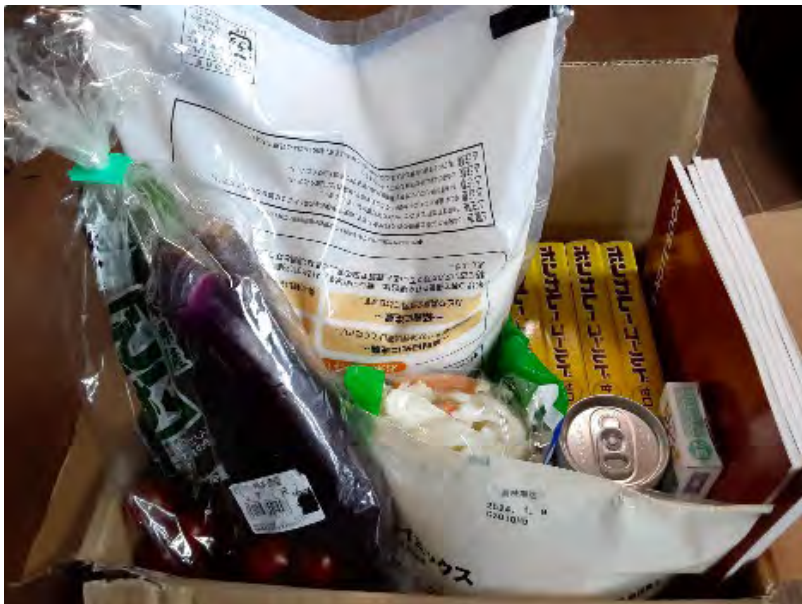
# 民間連携事業体による“住宅確保要配慮者”居住支援推進【民民連携】

事業の実施機関	スマイルプロジェクト
対象地域	愛知県東部及び岐阜県

連携先の実施機関
特定非営利活動法人かみああと（特定非営利活動法人）、特定非営利活動法人うっどああと（特定非営利活動法人）、リーブル株式会社（株式会社）

取組の内容	
<a href="https://smile-project.amebaownd.com/pages/4118096/page_">https://smile-project.amebaownd.com/pages/4118096/page_</a>	
取組みの内容	<p>本コンソーシアムでは住宅確保要配慮者の問題を解決するためには、以下の取り組みを総合的に行い、対象者の社会的・経済的自立に向けての支援を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済的支援の充実 住宅確保要配慮者への経済的支援を充実させることで、経済的な困難を軽減することができます。</li> <li>・ 生活支援体制の整備 地域の支援体制を整備することで、住宅確保要配慮者の孤立感を解消し、社会とのつながりを促進することができます。</li> <li>・ 居住支援の強化 住宅確保要配慮者貧困対策を強化することで、子どもの健全な成長を支えることができます。</li> </ul>
取組にあたって苦労、苦慮した内容	新たな包括的な取り組みの為、仕組みを構築するまでが大変でした。
取組みの効果	本年度より実施して、現在2名の案件を支援中

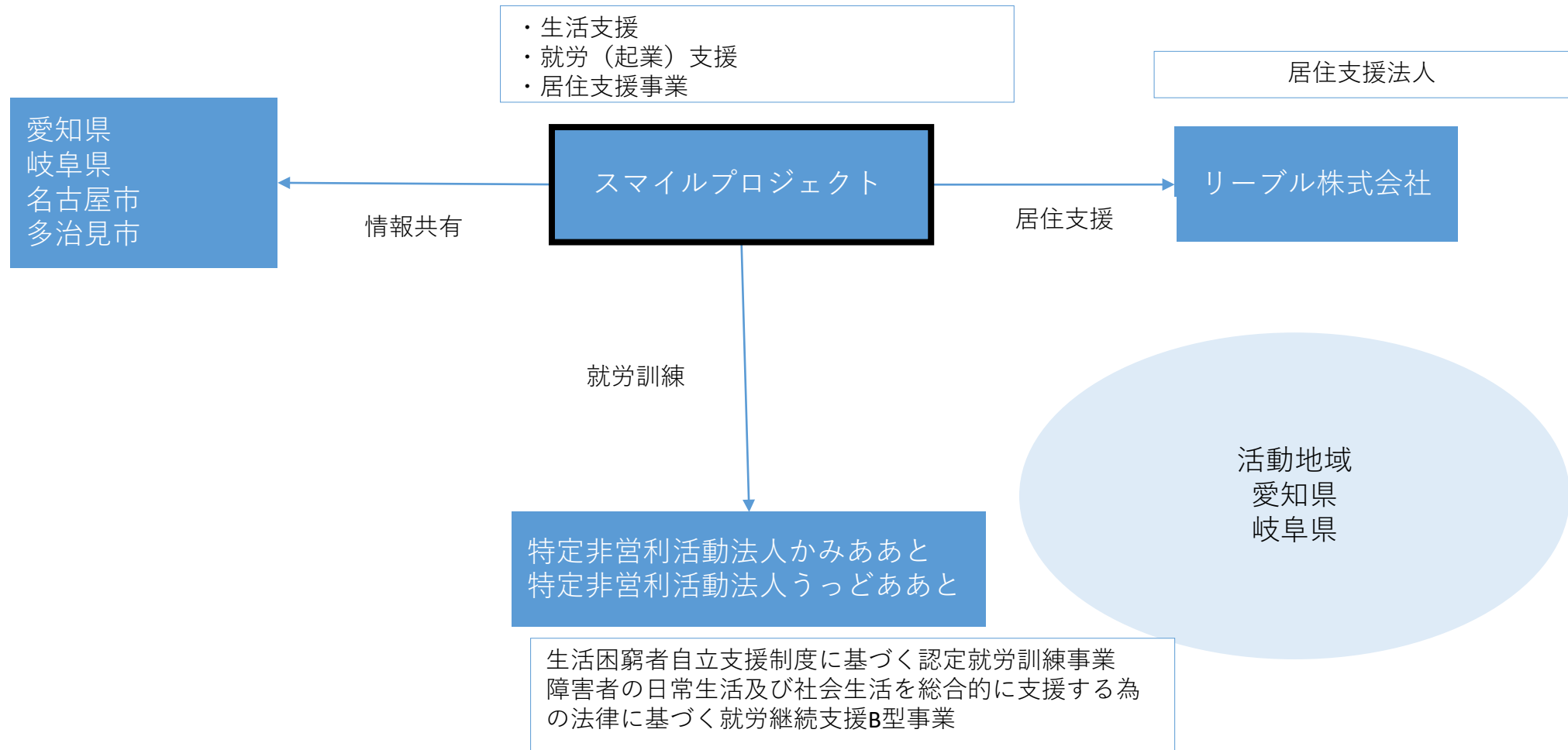
ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
											● 18



# 民間連携事業体による“住宅確保要配慮者”居住支援推進事業 実施体制

本コンソーシアムでは住宅確保要配慮者の問題を解決するためには、以下の取り組みを総合的に行い、対象者の社会的・経済的自立に向けての支援を行います。

- ・経済的支援の充実  
住宅確保要配慮者への経済的支援を充実させることで、経済的な困難を軽減することができます。
- ・生活支援体制の整備  
地域の支援体制を整備することで、住宅確保要配慮者の孤立感を解消し、社会とのつながりを促進することができます。
- ・居住支援の強化  
住宅確保要配慮者貧困対策を強化することで、子どもの健全な成長を支えることができます。





# ミールズ・オンホイールズロジシステム物流支援プロジェクト【民民連携】

事業の実施機関	一般社団法人全国食支援活動協力会
対象地域	北海道・長野県・鳥取市ほか・山口県

連携先の実施機関
一般財団法人北海道国際交流センター（一般財団法人）、特定非営利活動法人NPOホットライン信州（特定非営利活動法人）、特定非営利活動法人フードバンク山口（特定非営利活動法人）、麒麟のまち地域食堂ネットワーク

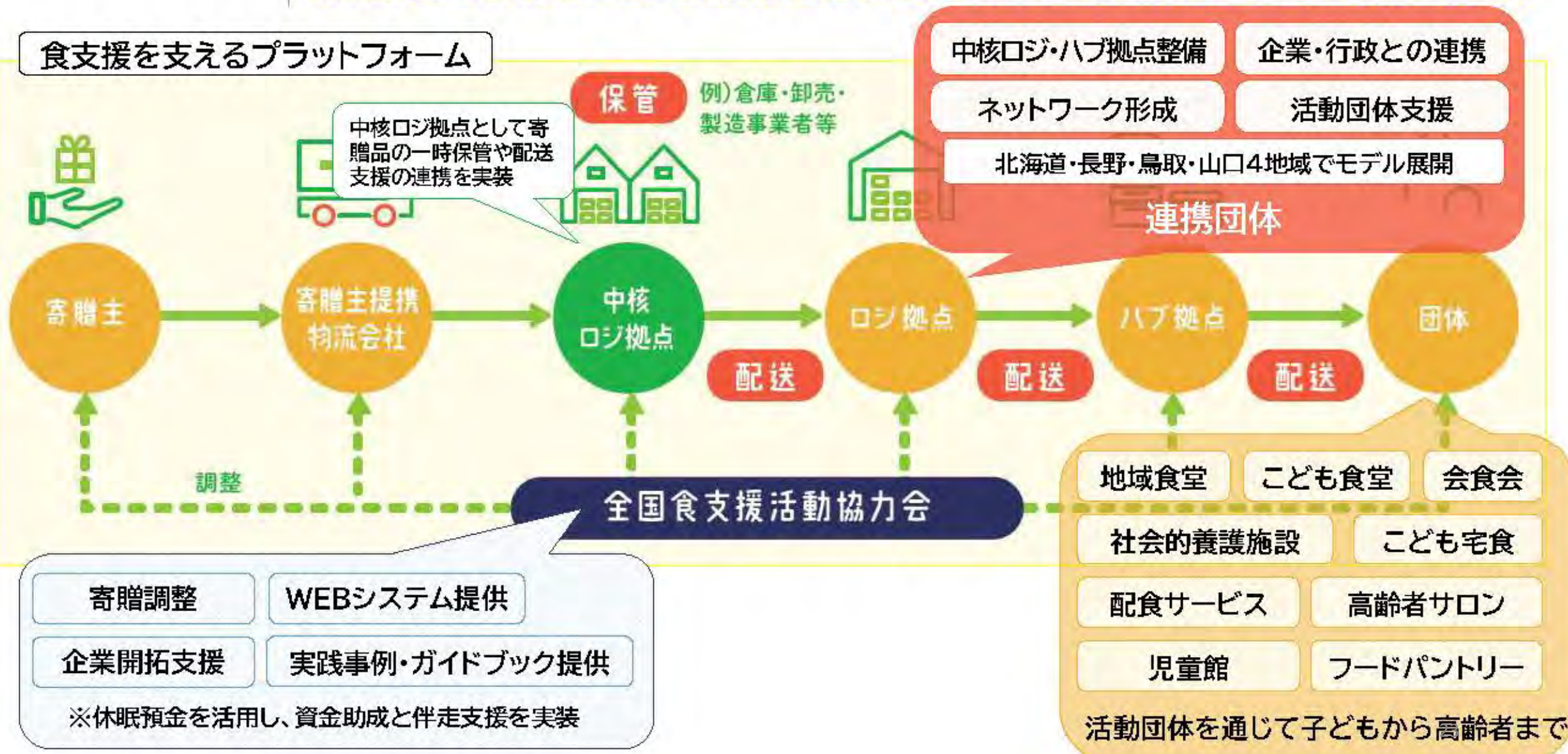
取組の内容	
<a href="https://mow.jp/mow-1s/index.html">https://mow.jp/mow-1s/index.html</a>	
取組みの内容	<p>全国食支援活動協力会が推進する「MOWLS（ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム）」は、食品メーカーをはじめとする企業からの食品等を一括受入れし、中核拠点へ配送・分配することにより、企業の配送コストを軽減しながら、食支援を必要とする人たちに効率的に届けることができる仕組みです。MOWLSを通じて寄贈された食品は、全国にある約150か所の拠点から2,000か所の食支援団体に届けられ、こども食堂等の「居場所」に集う子どもから高齢者までが食事を得られる環境づくりをサポートしています。MOWLSに寄贈された食品は、食を通じた居場所づくり団体、生活困窮者支援・若者支援団体、社会的養護施設、自治体などに届けられます。しかし、いずれの地域においても一定量の食品を保管できる拠点の不足や拠点間の物流に関する課題があります。本プロジェクトでは、モデル地域として北海道・長野・鳥取・山口に所在する団体と連携し、域内・域外の大量寄付食品を効率的かつ適切にストック・シェアするための物流ネットワークの構築に取り組んでいます。</p>
取組にあたって苦労、苦慮した内容	<p>福祉分野では長く活動歴もあり、連携機関やネットワークを有していましたが、物流業界との接点がなかったことからまず本課題を物流業界の方々に発信する・認知してもらうことが大変でした。また、物流業界では2024年問題にともない人手不足など大きな影響に直面している中で本取り組みの意義に共感いただき、既存の経営資源を提供いただくための対話・連携を繰り返し行っています。また、行政においても食支援にかかわる管轄課が所在していないために複数課との調整が必要となっています。</p>
取組みの効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食のある居場所への食品提供量及び分配先活動団体数が事業開始時と比べ各地域にて実績が増えた</li> <li>・MOWLSからの寄贈受入れ実績が増えたことで、域内からの寄贈も増えている</li> <li>・域内の寄贈品の配送に協力してくれる物流事業者や社会福祉法人との連携モデルが生まれた</li> <li>・鳥取では孤立・孤独プラットフォームの中でフードサポート事業としてモデル起案に貢献した（成果からの学び）1地域のみで実施するのではなく、モデルとして4地域と連携して実行する他、MOWLSに参画する他ロジ拠点における様々な先事例を参照したり関係資本を最大限共有する手法が効果的だったと考えます。</li> </ul>

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
											●

# プロジェクト紹介

対象地域にて、域外からの物資の受入れ、ハブ拠点への配送、分配までの一連のコーディネート機能を多様なステークホルダーとの連携による実現を試みる。子どもから高齢者まで居場所づくりや食支援を通じて、つながりの貧困・孤立孤独の予防に貢献。

## 食支援を支えるプラットフォーム





# ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム(通称MOWLS)を支えるステークホルダー

## 寄贈支援(企業)

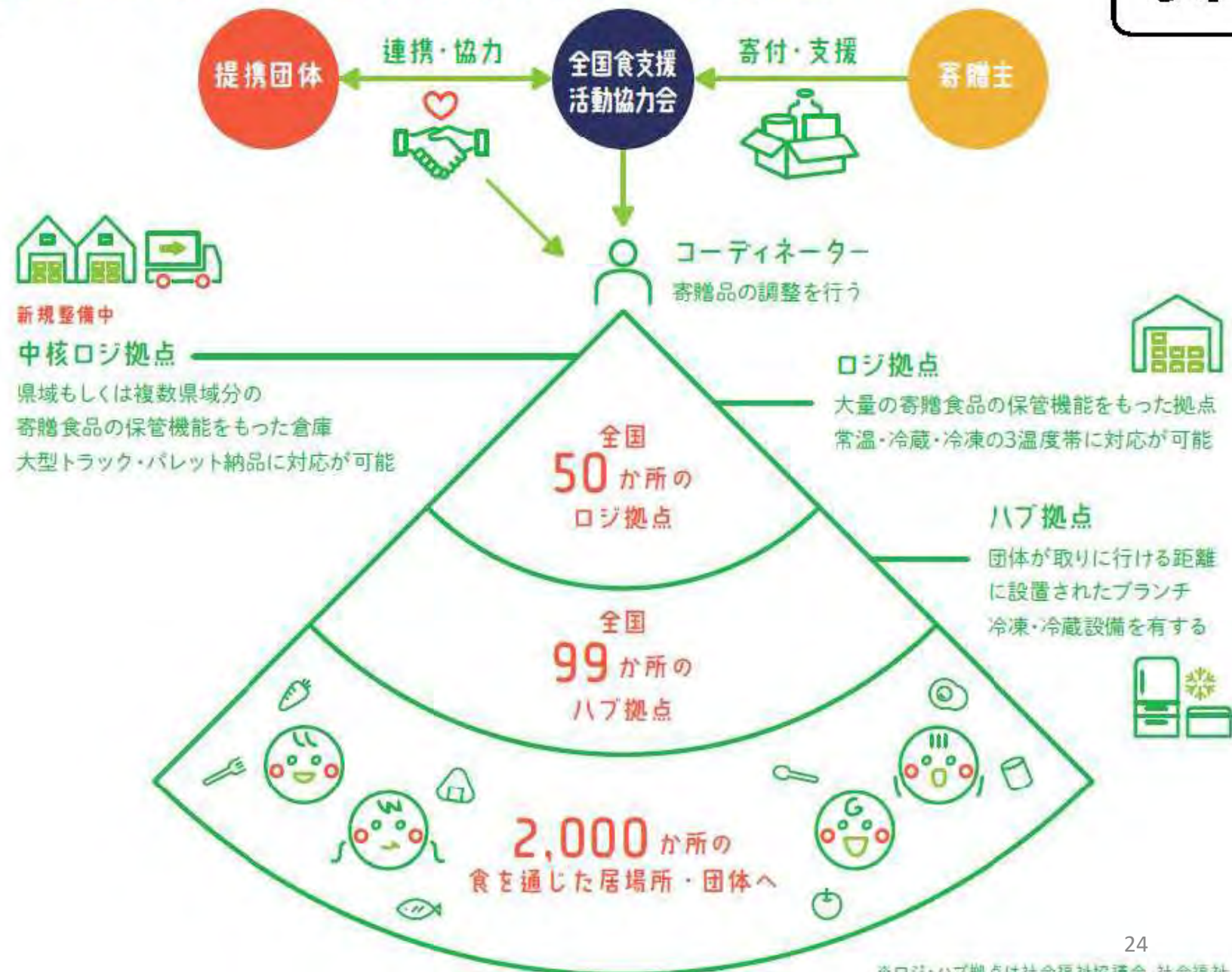
アサヒグループ食品/アサヒ飲料/王将  
フードサービス/キューピーみらいたま  
ご財団/コストコホールセールジャパン  
/日新製糖/ロッテ ほか  
(2023年度実績 一部抜粋)

## 情報連携(行政)

厚生労働省、農林水産省、  
こども家庭庁、内閣府、  
各都道府県庁 等

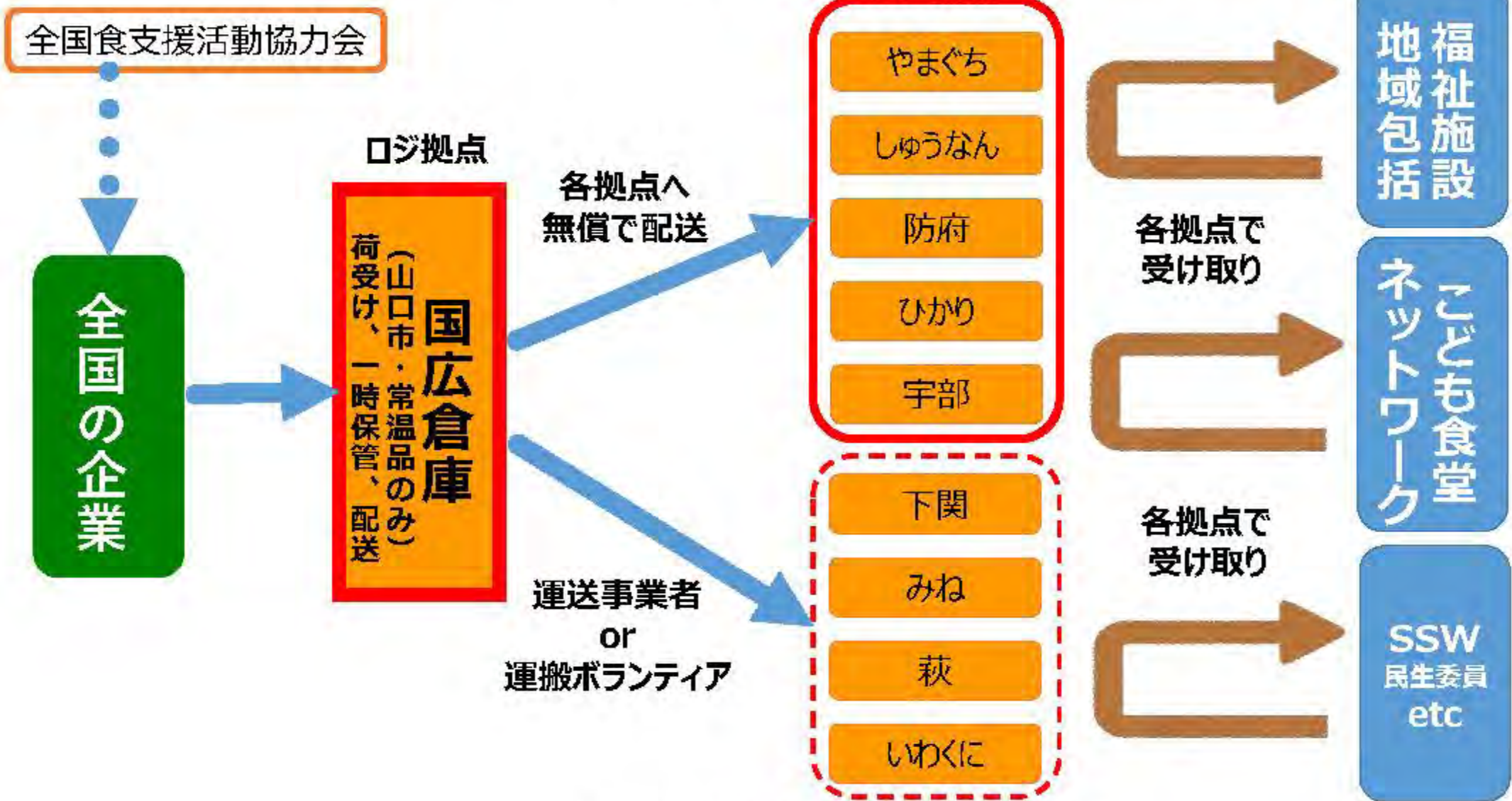
## 資金的支援

JANPIA、(公社)24時間テレビチャリ  
ティー委員会、ニチレイMIRAIterrace  
財団、Yahoo!ネット募金 ほか  
(2023年度実績 一部抜粋)





# フードバンク山口の物流(大量寄贈の場合)



# お悩みハンドブック（全国版・地方自治体版）【官民連携】

事業の実施機関	株式会社グラファー
対象地域	全国 / 北九州市 / 京都市

## 連携先の実施機関

株式会社グラファー（株式会社）、北九州市（地方公共団体）、京都市（地方公共団体）

## 取組の内容

サービス紹介ページ: <https://graffer.jp/governments/solution-compass>

「困難に直面する人に支援を確実に届けたい」なぜ北九州市は支援情報を見つけ出せるサービスを開始したのか

<https://graffer.jp/govtech/articles/kitakyushu-handbook>

## 取組みの内容

株式会社グラファーはだれもが困難を乗り越えやすい社会の実現を目指し、あてはまる悩みにチェックをつけるだけで役立つ支援を見つけられるウェブサイト「お悩みハンドブック」を運営しています。

「お悩みハンドブック 全国版」では、自社調べにより全国的に提供される支援情報を幅広く集約しました。しかし、行政のデジタル化の遅れの影響を受け、各自治体独自の支援情報までは集約できず、利用者は各制度を利用する際の窓口の探し方までしか情報を入手できませんでした。そこで、全国版に加え、自治体向けカスタマイズ機能の提供も開始しました。自治体向けカスタマイズ機能は、自治体職員が各制度の問い合わせ先や、市民向けの案内ページ・関連リンクなどの自治体独自の支援情報の掲載が可能です。本機能は2022年12月には北九州市版、2023年2月には京都市版として公開されています。市民に案内すべき情報を部署や官民の壁を超え、幅広く集約することで、市民がより迷わず、かんたんに身近な情報へアクセスできるようになりました。

今後、この取り組みを他の自治体にも拡大するとともに、地域の民間NPO法人などの社会資源を具体的な支援活動に基づいて探しやすくする「社会資源の見える化」プロジェクトなども並行して進めてまいります。



**取組にあたって苦労、苦慮した内容**

試作品をもとに当事者や支援者にヒアリング調査を行った段階では「システムを作ったところで当事者が自分自身で解決するのは難しいのではないか」といった声もありました。  
 議論や見直しを300回以上繰り返し、難しい言葉を極力排除し、支援を必要とする方が回答する負担を感じないようにすることで、現在のお悩みハンドブックの形に辿り着きました。  
 今後も、利用者や関係者と議論を交わしながらよりよい形で情報を届けられるサービスになるよう改善を続けてまいります。

○製作者インタビュー  
 「あのとき、もし知っていたら」自身の困難な経験をもとに生まれた「お悩みハンドブック」開発者の想い | GOVTECH TRENDS  
<https://graffer.jp/govtech/articles/onayami-handbook-developer>

**取組みの効果**

サービス提供開始以来SNSを中心に多くの反響があり、2023年11月14日現在57万ユーザーを突破しています。  
 「親から逃げるときに役立った」「訪問診療で使っている」といった利用者の声も寄せられています。  
 2022年2月末には参議院予算委員会にて、「困難に直面する人に寄り添った支援情報提供サイト」として紹介されました。そのほかメディア等で多数紹介されています。

■実際に寄せられた声  
 「うつ病を患い仕事を辞めたときにこのサイトを見つけました。もう少し頑張ってみます。ありがとうございます。」  
 「素晴らしいサイトだと思いました。今本当に行き詰っている人の多くの問題の支援を本人の意思で探すことができます。」  
 「ほんとこれ、助かった。うちの場合は親本人の気持ちの問題もあるし、これからどうなっていくかわからないけど何処に相談したらいいのかさえわからないってめっちゃくちゃ不安だから。わかりやすいし見やすいしあらゆる状況の人達を想定してあって尊敬する。」

○みなさまの声 | お悩みハンドブックご紹介ページ  
<https://handbook-help-graffer.notion.site/f2dd423c29784b3c856644337f6dbda1>

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
											●

# 「お悩みハンドブック」事業 実施体制



支援情報の更新・反映（全国共通・連携自治体）

導入自治体への利用状況のレポート

システムメンテナンス・改善

地域独自の支援情報をとりまとめ

各支援制度の問い合わせ先・窓口

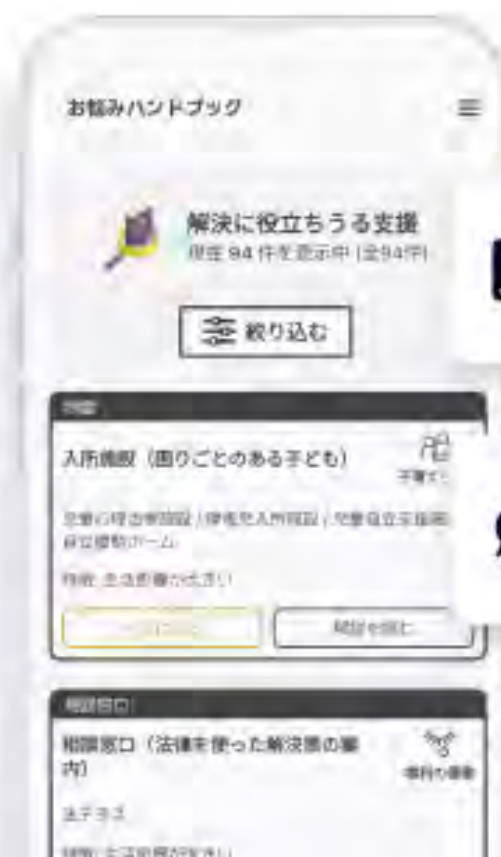
地域独自の支援情報（案内冊子・民間NPO団体など）

担当：孤独孤立対策推進担当課など

# お悩みハンドブックとは



お悩みチェックで役立つ支援がわかるウェブサイトです。制度の見逃しを防ぎ、相談準備までできるので、困ったときに制度や人を迷わず頼れます。支援の利用に必要なプロセスの一部をテクノロジーと情報設計で自動化し、本人の最適な意思決定をサポートします。



手続きで毎日を通さしやすくする  
**制度**

困ったときに力を貸してくれる  
**相談窓口**

# アンケートに寄せられた声



うつ病を患い仕事を辞めたときにこのサイトを見つけました。もう少し頑張ってみます。

**悩みを整理できた**



長年漠然と困っていることがありましたが、どう調べたらいいのかも解決できるのかも分からず、このサイトに偶然辿り着き利用しました。適切な支援を受けられる場所がありそうだとということがわかりとても安心しました。



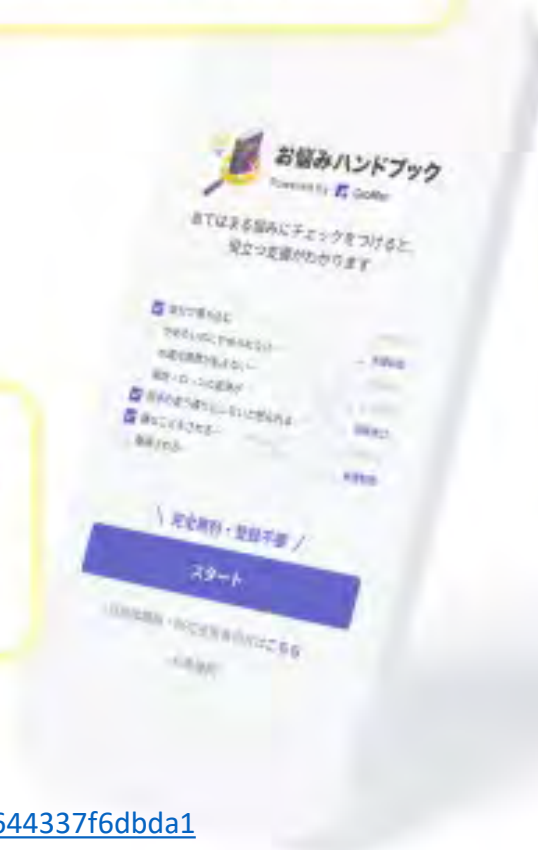
困ったことがあっても人にうまく伝えられる気がしないし、モヤモヤにフタをする、を繰り返してきましたが、こちらのサイトを使って、それぞれを分けて考えることができました。

**困り果ててる状況でも頼りやすい**



入口から出口まで、わかりやすい道案内を得てとても助かりました。困っていることが当たり前にならずに、困っていない、と言う癖がついているような人にもおすすめしやすいフォーマットだと思いました。

**本人の意思で探せる**





# まめもやし【民民連携】

事業の実施機関	特定非営利活動法人東九条まちづくりサポートセンター
対象地域	京都市 南区

## 連携先の実施機関

自治会、京都市住宅供給公社（地方公共団体）、モアネットワーク（特定非営利活動法人）

## 取組の内容

[https://www.ninchisho-forum.com/movie/n\\_070\\_01.html](https://www.ninchisho-forum.com/movie/n_070_01.html)

### 取組みの内容

1. 市営住宅の管理業務  
全3棟、86戸ある世帯への共益費・駐車場等の受取や、住宅設備に関する説明、必要に応じて団地敷地内の修繕箇所についても公社との取次も行なっています。例えば、韓国語・中国語・英語での説明や説明文を作成し、誰もが使える環境を整えています。また、自治会と連携し、業務分担や情報共有などを行なっています。
2. 生活支援・見守り  
管理事務所を月～金の日中開所しており、日常生活に関する相談や、些細な悩みを傾聴し、心のケアにもつながっています。現在は、50%以上が65歳を超えており、外国籍ルーツだけではなく、知的障害や精神障害のある者も居住しています。そのため各関係機関や成年後見人との連絡調整も含め、日頃からの見守り・訪問などで安否確認を行なっています。
3. 会食・配食活動  
毎週金曜日には会食・配食を行い、顔を見合わせる・自宅訪問する機会もつくっています。食事に関してもどの住民も食べやすいようなメニューの工夫をしています。
4. 外国人ルーツの歴史や生活歴を語り継ぐ  
在日コリアン1世など、あまり多く語られてこなかった外国籍の日本での生活史について、1人1人聞き取りを行い、広報誌に掲載。

### 取組にあたって苦労、苦慮した内容

1. 市営住宅の管理外の業務  
住民と自治会スタッフの高齢化につれて、本来住民や自治会で行う生活環境の整備などを行うことができていない現状。生活に支障がでるため、管理事務所の役割を超えた、まめもやしへ業務が増えています。
2. 支援員不足  
市営住宅の管理業務については、京都市からの事業委託として行なっています。ただ実態としては、生活支援では社会福祉的な専門性が必要となるが、専門職の配置基準もなく、人件費の支出が難しく、公募することもできない。結果として、孤立孤独を防止するアウトリーチ事業が近年難しくなっています。
3. 運営面  
委託収入とカンパが主な収入となっているため、必要経費以外での出金が難しい。また住民の高齢化にともない会食等の参加率も下がっており、今後の継続が困難となっています。

## 取組みの効果

### 1. 孤立防止

管理事務所前に談話室を設置していることで、住民間の交流が盛んとなり、棟を超えて知り合うことができるようになり、福祉サービス以外での繋がりや友達関係が築かれています。

### 2. 見守り・介入

日頃から顔見知りの関係となっているため、住民同士で異変などがあれば、知らせが届き、危機的場面についても早期見守り・介入が可能となっています。また、外国籍や障害をオープンにできる場となっているため、施設ではなく、団地で最後を迎えることを希望する人が増えています。

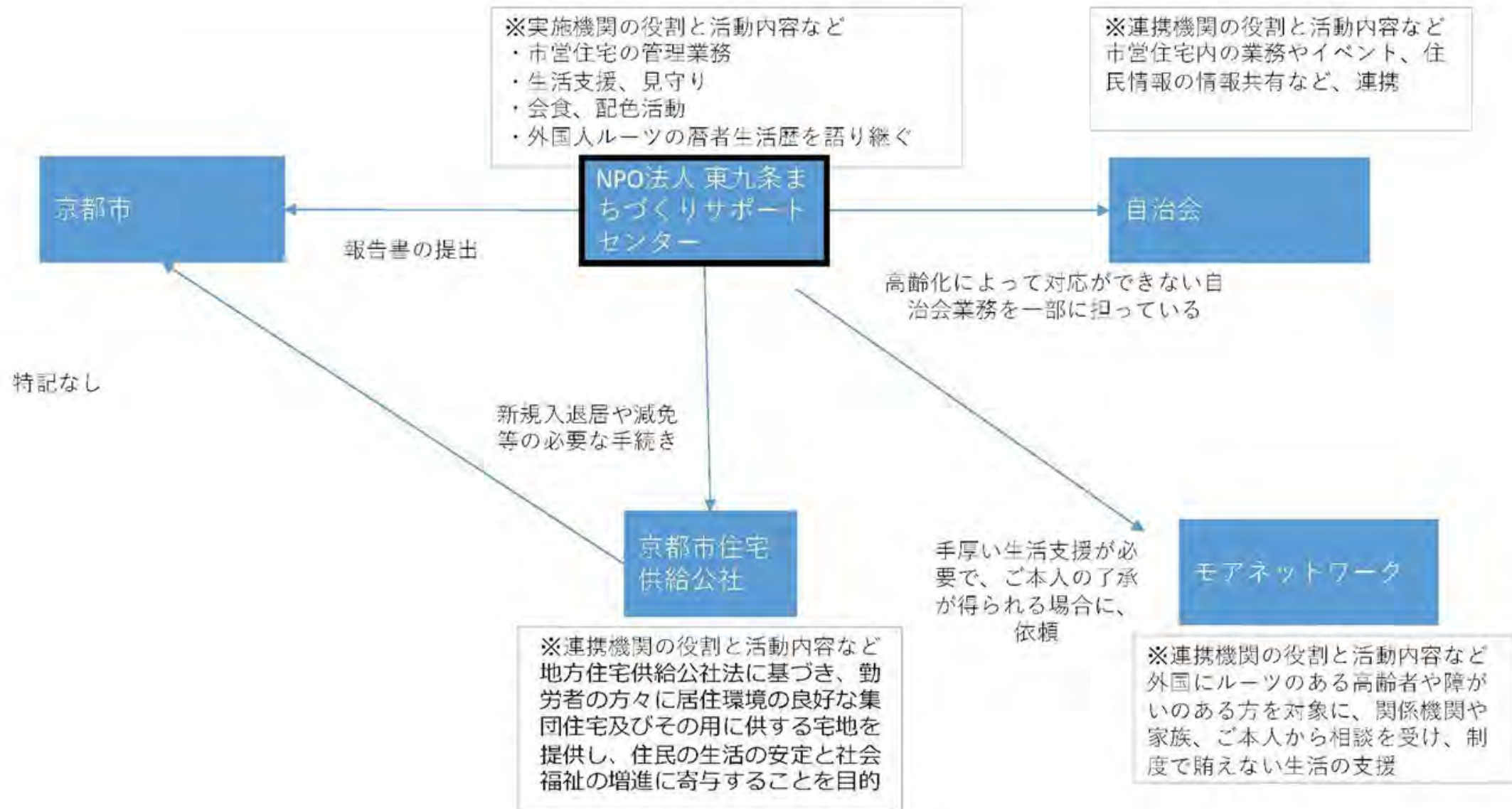
## ライフステージの区分

子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●





団地住民の丸ごと支援



# 勝央町地域見守りネットワーク事業【官民連携】

事業の実施機関	勝央町役場
対象地域	勝央町

## 連携先の実施機関

①JA晴れの国岡山 勝央支店 ②山陽新聞 勝央販売所 ③山陽新聞 美野販売所 ④勝央町高齢者事業団 ⑤株式会社セイエル 津山営業所 ⑥太平台株式会社 ⑦株式会社中国銀行 勝間田支店 ⑧津山信用金庫 勝間田支店 ⑨日本郵便株式会社（勝央郵便局、植月郵便局、石生郵便局） ⑩丸尾牛乳店 ⑪一般社団法人よしの

## 取組の内容

-

### 取組みの内容

住民が住み慣れた地域で安全に安心して暮らしていけるよう、一人暮らしの高齢者、障がい者及び子どもの虐待や孤立死等を予防するため、日頃の見守り活動の中で小さな異変に気づき、その気づきを相談できるネットワークを構築するもの。支援が必要な住民の早期発見・対応、危機管理、情報共有を行うため、以下のことを行っています。

- ・協力事業者は、地域において行われる業務において、対象者の異変に気付いた場合における各機関への連絡を行っています。
- ・勝央町または各機関は、協力事業者から受けた連絡に対し、迅速かつ必要な対応を行っています。
- ・勝央町は行方不明者や不審者の情報について、対象の家族の同意があれば協力事業者の携帯電話等に情報をメール配信。

### 取組にあたって苦労、苦慮した内容

各協力事業者に対し、事業説明を行い、趣旨を理解してもらうこと。

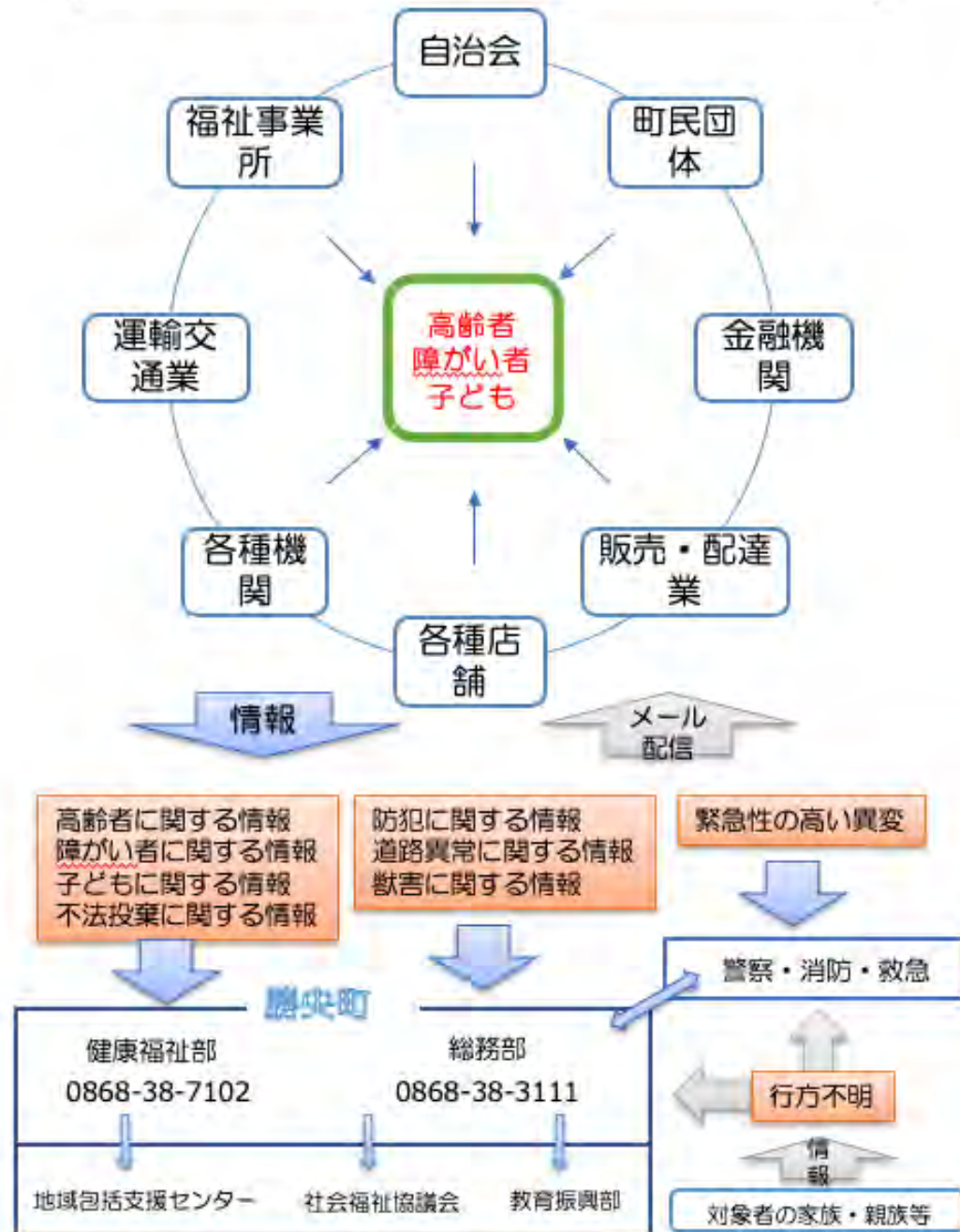
### 取組みの効果

行政だけでは気付くこと（発見すること）が出来ないような事象（例えば、郵便受けに新聞が溜まっている、道路の陥没があるなど）にも対応することが出来ます。また、行方不明者の捜索など、幅広いネットワークが有効に機能する場面も考えられます。

## ライフステージの区分

子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
											● 35

勝央町見守りネットワークイメージ図





# 頼れる大人のいない若者が生き抜いていくための基盤作り事業【民民連携】

事業の実施機関	特定非営利活動法人サンカクシャ
対象地域	豊島区

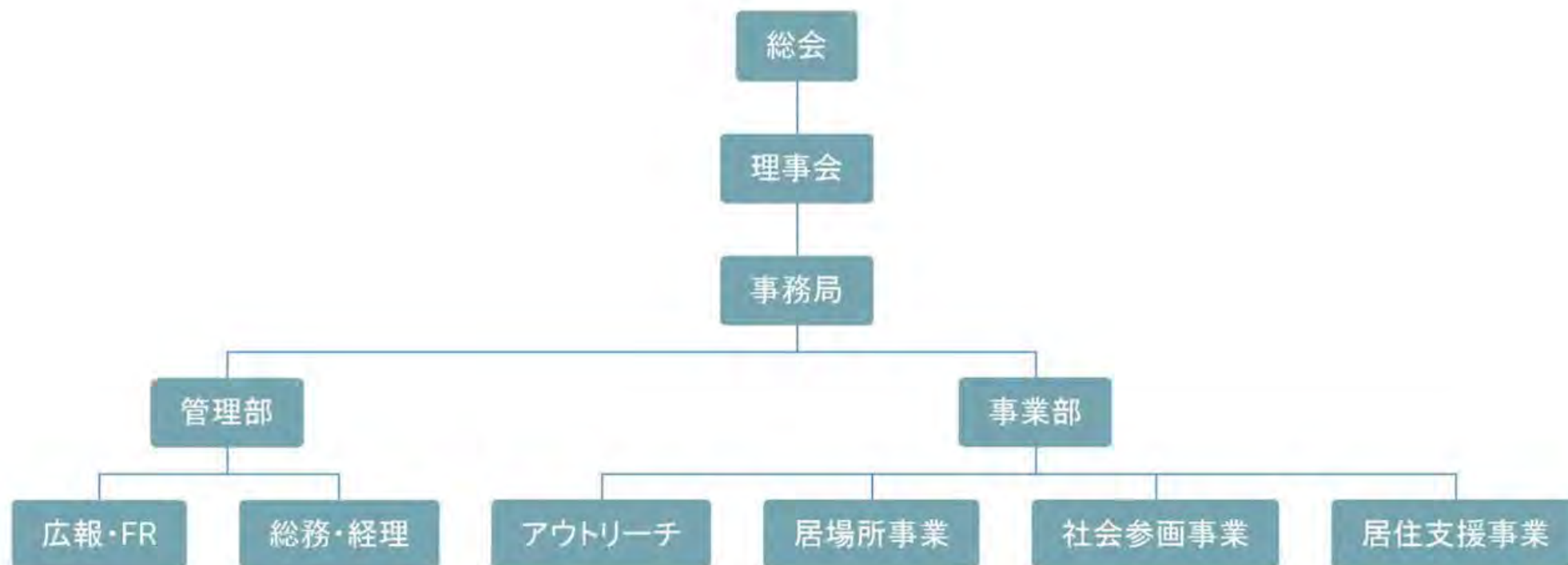
<b>連携先の実施機関</b>
豊島区こども若者課（地方公共団体）、豊島区生活福祉課（地方公共団体）、公益財団法人プランインターナショナル（公益財団法人）、OktaJapan株式会社（株式会社）、一般社団法人Masterpiece（一般社団法人）

取組の内容	
<a href="https://www.sankakusha.or.jp/">https://www.sankakusha.or.jp/</a>	
取組みの内容	誰も頼れず孤立した状態から、家を離れて、経済的にも精神的にも安定して生き抜いていけるように、居場所・住まい・仕事の3事業を通じてサポートします。虐待やいじめ、貧困などさまざまに重複した課題から生じるメンタルの不調や体調不良などから回復していくこと、安心・安全を感じられる人間関係を知ることによって対人不安を克服していくことなど、働くより手前の段階で手厚いサポートを行うことが特徴。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	突然連絡が取れなくなることが多い。虐待やいじめなど重複した背景を抱える若者は「助けて」の声をあげたり、困ったときに誰かに頼ったりする経験が少ないため、嫌なことや困ったことがあったときに縁が切れてしまう。ただし連絡を取れる手段は維持したままにしておくこと、時間が経ってから改めて相談にくることはよくある。短期間での成果や目標達成にとらわれることなく、いつでもまた連絡できる関係性を築くことを重視しています。
取組みの効果	長いスパンでの取組であることで、若者自身のタイミングを大切にすることができます。子どもの学習支援、就労支援は受験など段階に応じたタイミングや就労意欲が支援の指標となりやすい傾向があるが、子ども自身のタイミングにそぐわないまま環境が変わってしまう傾向があります。当事業は苦労、苦慮した内容で回答した通り、短期的に縁が切れたとしても、本人の変わりたいと思うタイミングで連絡が来て相談につながることもあります。

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
					●	●		●			37



# サンカクシャ組織体制図



(2022年4月1日現在)



# 横につながる交流会（略称：よこづな）【官民連携】

事業の実施機関	株式会社ネクステ
対象地域	丹波市

## 連携先の実施機関

社会福祉協議会（県、市）、地域包括支援センター、警察、県保健所、県教委、市教委、市困窮窓口、市高齢関係窓口、弁護士、不動産、子ども食堂、便利屋、保護猫（他、様々な分野より参加）

## 取組の内容

<https://tanba.jp/2022/11/%e6%a8%aa%e3%81%ae%e3%81%a4%e3%81%aa%e3%81%8c%e3%82%8a%e3%81%a7%e6%94%af%e6%8f%b4%e3%82%92%e3%80%80%e5%9c%b0%e5%9f%9f%e3%81%ae%e7%a6%8f%e7%a5%89%e5%b0%82%e9%96%80%e5%ae%b6%e3%82%89%e3%81%8c%e4%ba%a4/>

## 取組みの内容

複合化している地域での課題に対し、官民、民民、そして官官がそれぞれ連携するにおいて、連携する者同志がお互いを知る（顔見知りになる、何をしている機関、窓口、事業所）ということとは不可欠であると考え、より地方の地域こそ、誰も取りこぼされることのない網の目の細かいザルを作ること、市内におられる優秀な支援者同士がつながり「網」のような太い関係性を作り、強固なセーフティーネットを作る為の第一歩として、「横につながる交流会」（略して「よこづな」を企画し、実施しています。昨年7月より4回実施し、1回目20名、2回目40名、3回目と4回目は60名と大きく輪が広がりつつあります。会のメインは後半の交流タイムで、参加者全員がお見合いパーティーの様に対面で並び、約3分～4分名詞交換等を含む自己紹介等をして頂き、お互いをアピールして頂きます。それを数回繰り返し、残りの時間で全体への情報提供の時間、その後は喋り足りない人、意中の方と話ができなかった方がお話しできるようフリータイムの時間としています。動員や強制的な参加依頼はせずとも、毎回必要と感じて参加して頂いていると思っております。具体的な課題、成果はのちのページにてお伝えします。次項のWEBのURLは、専用のHPはありませんので、新聞記事のURLを表記しております。

## 取組にあたって苦勞、苦慮した内容

とにかくこれまでは、同じパターンで開催をしてきました。「第1回目（R4.7.15）自己紹介と交流タイム」、「第2回目（R4.11.2）地元の弁護士による丹波市ならではの相談内容等のミニ講義と交流タイム」、「スピンオフとして横につながるコア会議（R4.12.12）と題してコアメンバーを集めて地域課題の洗い出し」、「第3回目（R5.6.21）自己紹介と交流タイム」、「第4回目（R5.11.2）地域貢献を目指す企業ネットワークの発表と交流タイム」、といった内容でした。今後はこのパターンでの交流の機会も持ちつつ、実際に地域課題や困難ケースに直面した際に、プラットフォーム、ネットワークとして機能する形作りをしていくことが課題であり、行政からの働きかけだけでなく、官民の協同によって取り組める組織体が必要であると考えています。個々の分野では、他分野の連携が必要であることは感じておられるが、誰が声を発するかを待っている状態にあり、特に行政の縦割り意識が強い部分を如何に緩めていくかが必要であると考えています。

## 取組みの効果

これまで数回会を重ねる中で、成果も出ているのも確かで、基本的ではあるが8050問題に象徴される高齢者の支援に入っていたケアマネージャーが、実は障害のある子どもさんが何十年も在宅で生活されていたのを、よこづな会で知り合った相談支援専門員につなぎ、障害福祉サービスの利用につながったケースがありました。また約1年間、夜は道の駅で車中生活をしてきた判断能力が乏しい母と知的障害のある娘が、よこづな会で不動産屋と担当の相談支援専門員がつながり、体力が劣っていた母の緊急入院や生活保護の受給を経て、新しい住居が見つかり、入居できたケースがあります。（このケースは他にも他職種の連携により支援をしました）

第4回目では、企業ネットワークの発表で来ていたショッピングセンターと県の保健所がつながり、自家発電設備を有するショッピングセンターと災害時の電気確保の連携について現在進行形で協議が進んでいます。

## ライフステージの区分

子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
											●

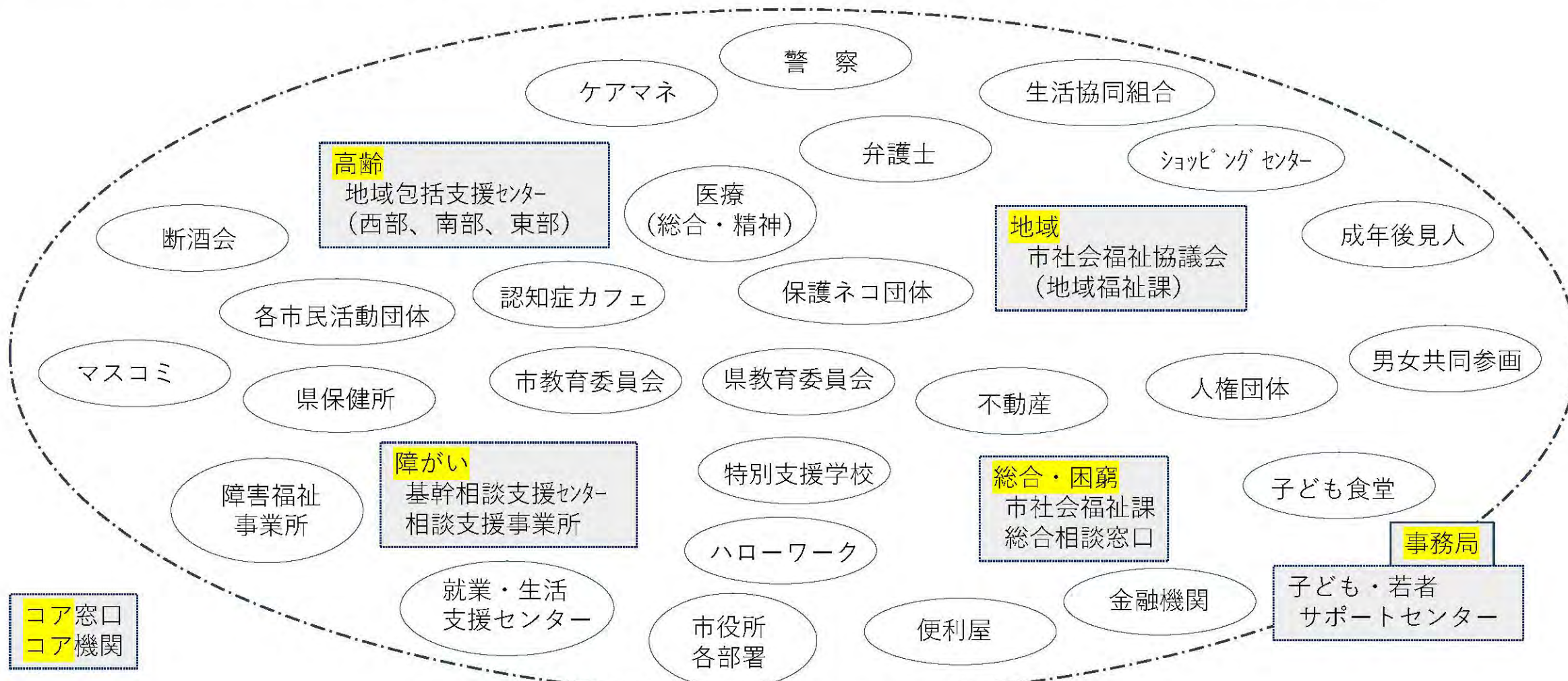






# 横につながる交流会（略称：よこづな） 実施体制

とにかく、支える立場の者同志が、お互いの顔を知り、できることを知り、仲良くなること。  
開催は、年度が始まり落ち着く6月中旬頃と、年度後半に向けて動く11月に開催。



# 社会とつながるオリヅルプロジェクト（参加支援事業）【官民連携】

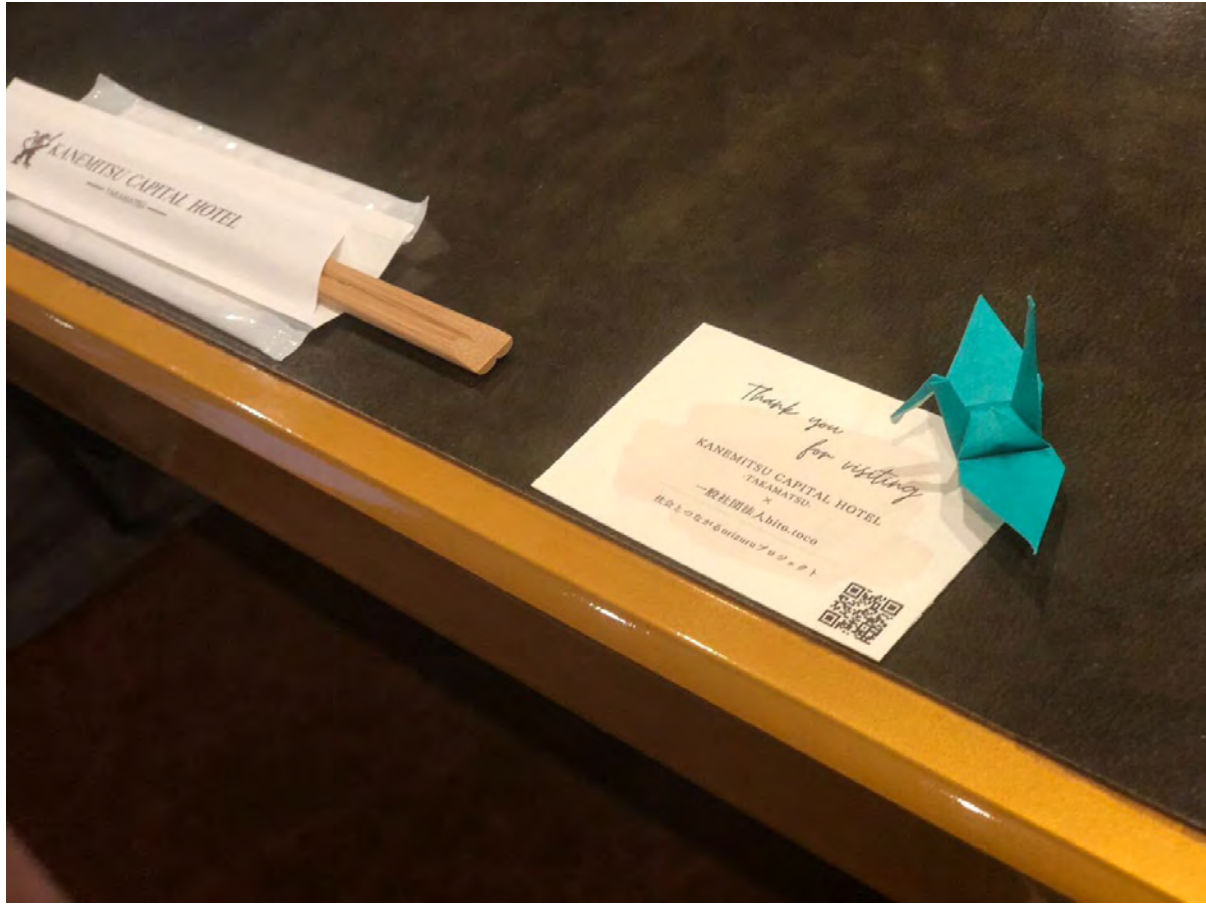
事業の実施機関	一般社団法人hito.toco
対象地域	高松市

連携先の実施機関
KANEMITSU CAPITAL（株式会社）、高松市（地方公共団体）

取組の内容	
<a href="https://www.instagram.com/p/CqunC_vWmz/?igshid=NTc4MTIwNjQ2YQ==">https://www.instagram.com/p/CqunC_vWmz/?igshid=NTc4MTIwNjQ2YQ==</a>	
取組みの内容	<p>就職したいという思いがあるが、外出へのハードルが高い方等に対し、県花・県木であるオリーブ色の折り鶴を自宅や来所等で作成してもらい、作成された折り鶴一羽につき、40円（2023.11月現在）の報酬を支払っています。作成された折り鶴はホテルのウェルカムスペースや客室に飾られています。対象者が社会との接点をもつことで、人とのつながりの輪を広げ、本人が目指す目標を達成できるよう、伴走型の支援を行うことで、対象者の自己肯定感や自己有用感の回復を目指しています。</p>
取組にあたって苦勞、苦慮した内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者にとって久しぶりの折り紙であったり、初めての折り鶴制作の場合、折り方や納品できる程度の品質にするために、練習をしました。しかし、過去の仕事の失敗経験からなのか、改善点を伝えることでモチベーションが低下することもあり、本人の肯定感を育みながら根気強く関わる必要がありました。</li> <li>・折り鶴をホテルの客室に置いていただいたが、ホテル側としては宿泊客にあまり持って帰ってもらえないので在庫が溜まっていくとの相談がありました。折り鶴に添える文言等に工夫をしているところです。</li> </ul>
取組みの効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会との接点を持つことで、人とのつながりの輪を広げ、本人の目指す目標を達成できるように伴走型支援を行うことで、自己肯定感や自己有用感を回復する。</li> <li>・始めは家で折ったものを支援者が回収しに行っていたが、その間に自転車の確保等を行い、自転車で当法人まで通って折り鶴を届けることが可能に。約束の時間に決まった数の折り鶴を届ける、という過程を通して次のステップを意識し就労意欲を高めることに効果がありました。</li> <li>・折り鶴を受け取る目的で接触回数が増えるという効果がありました。</li> <li>・折り鶴を折る作業を通して本人の「器用さ・不器用さ」、「集中して作業ができる・できない」、「長期間にわたり一定したリズムで作業ができる・できない」を見る事が出来たことにより、就職する際の得意と課題を見ることが出来ました。</li> </ul> <p>&lt;参加者の声&gt;            15年ほどひきこもり状態であった50代男性            「高松に来られたお客様のために心を込めて折りました。身が引き締まる思いで、久々にこの感覚を思い出しました。」</p>

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
											●

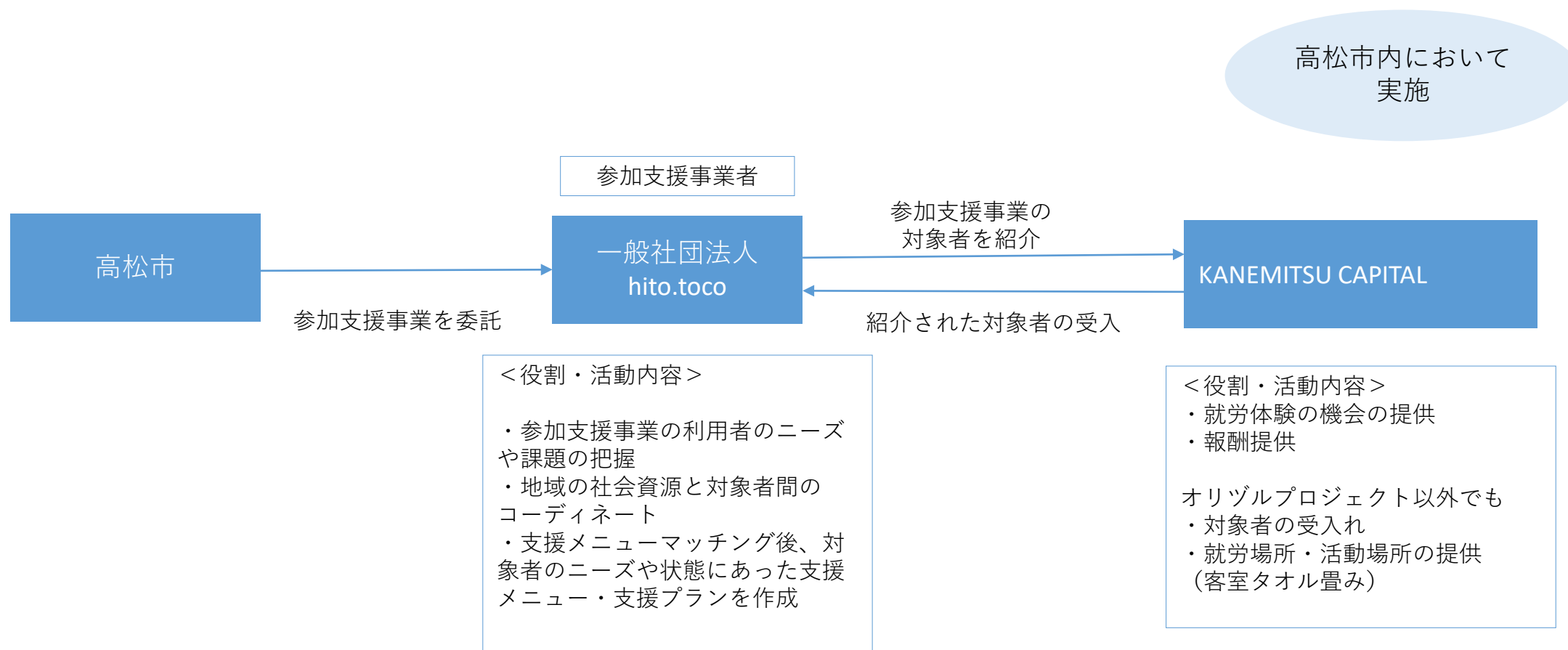




# 社会とつながるオリヅルプロジェクト（参加支援事業） 実施体制

※取組の概要・・・就職したいという思いがあるが、外出へのハードルが高い方等に対し、県花・県木であるオリーブ色の折り鶴を自宅や来所等で作成してもらい、作成された折り鶴一羽につき、40円相当の報酬を支払う。作成された折り鶴はホテルのウェルカムスペースや客室に飾られる。

対象者が社会との接点をもつことで、人とのつながりの輪を広げ、本人が目指す目標を達成できるよう、伴走型の支援を行うことで、対象者の自己肯定感や自己有用感の回復を目指す。



# 居場所を緩やかなネットで繋ぐ【民民連携】

事業の実施機関	特定非営利活動法人KOU
対象地域	県内25市町村中20市町村。小坂町・鹿角市・大館市・北秋田市・藤里町・八峰町・能代市・三種町・八郎潟町・男鹿市・潟上市・秋田市・由利本荘市・にかほ市・大仙市・仙北市・美郷町・横手市・羽後町

## 連携先の実施機関

秋田県内11社協（社会福祉協議会11カ所）、秋田県内4法人（特定非営利活動法人4カ所）、秋田県内11カ所（法人格なし11カ所）、秋田県内3市町村（市町村役場3カ所）

## 取組の内容

-

### 取組みの内容

公共交通の整わない地域において、動きにくさを抱える若者の電話相談を受け、市外在住人の居心地の悪さを受け止める目的で、居場所がないだろうかを探し始めたのが25年前。  
ほとんど無かったので、作ることにしました。住民でもない公共施設を借りることすら難しかったです。  
探し当てた理解者は社会福祉協議会の職員。加えて地域市民のボランティア養成講座を開催し、市民の協力者を募りました。体験活動の場所の手配も社協頼み。月に1回の居場所だから、利用者の送迎も社協が協力してくれています。年12回の居場所もあれば、年4回、毎日開けている所など、主催団体によりまちまち。社協内でも、自発的な年間計画をたてサクサクと事業化が進みはじめた居場所もあれば、秋田からの支援に寄りかかり気味の居場所も、いずれも大切な協力者として、継続的に交流しています。

例1：小坂町の居場所に参加していた若者が、大館市に転居。転居先に知人がいない。社会参加できるか不安があったが、特定非営利活動法人KOUのサポートで、大館市社協が動き、本人の不安がない仕事にたどり着きました。

例2：住民が少ない八峰町。小さな町で、参加していた若者達が就職などで、居場所の利用者がいなくなっていました。閉所するか継続稼働するか悩んでいるところだが、特定非営利活動法人KOUに参加する若者達が、来年度は年に4回町内の海岸清掃などをして、若者の居場所の存在アピール活動をする予定。

### 取組にあたって苦労、苦慮した内容

25年前、地域社会全体が、不登校やひきこもりに対する間違った支援方法を信じていた。  
動きにくさを抱えた若者達は追い詰められていた。  
県内25市町村のうち20カ所をこえた今、居場所を緩やかに繋ぎ、深刻なひきこもり相談や、居場所の事業内容や運営の仕方など情報を交換したり、運営に協力をしています。

2023年4月から11月までの、居場所訪問件数を集計したら、82回でした。往復4時間程度、居場所にいる時間2時間。秋田から若者を車に同乗させて連れてもどる。ところが、最近、居場所を開いても、SOSがでてこない。若者達からの相談が来ない。これまで受け止められた体験がないから、あきらめてしまって、家からでようと思わないのだろうか。ひきこもりの高齢化、8050を通過した。若者支援の居場所と言うが、60代男性の相談も寄せられます。若者支援である必要はなく、全年齢を対象とする居場所と変化しようとしています。



## 取組みの効果

居場所の目的や設置に対して理解者は増えてきています。

若者の参加は少なくなってきました。ひきこもっている人に支援情報が届かない。悩んでいる。

対象年齢が、どんどん広がってきていて、高齢者の居場所になってしまっているところがあります。今では、若者支援という言葉ははずすべきではないだろうか、議論しています。総人口3万人も居ないところで、若者だ、高齢者だと分けるのが、意味がないと言う人もいます。参加が自由で居心地を良く感じる人が居るならば、年齢制限もなく、何でも良いから来てもらうべきとの意見が多い。一人であるよりは、誰かと同じ場所にさせたい。

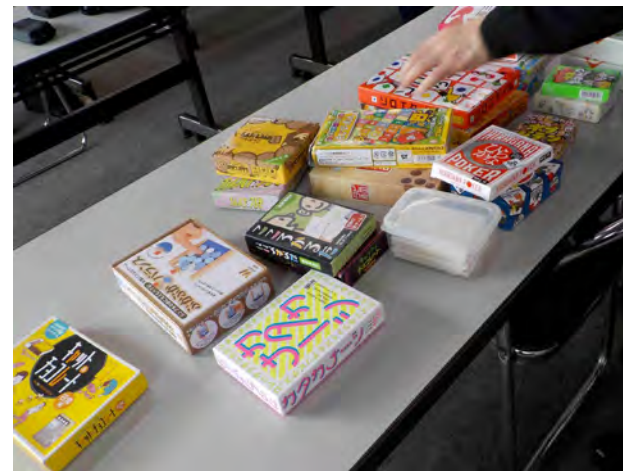
他人と一緒に居れば楽しいと感じる人すべての人にとって居場所であるべき。

## ライフステージの区分

子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
					●	●		●	●	●	●



八峰町 カミツレ収穫作業



八峰町の図書館においてもらう 菜造り  
地域の皆さんに

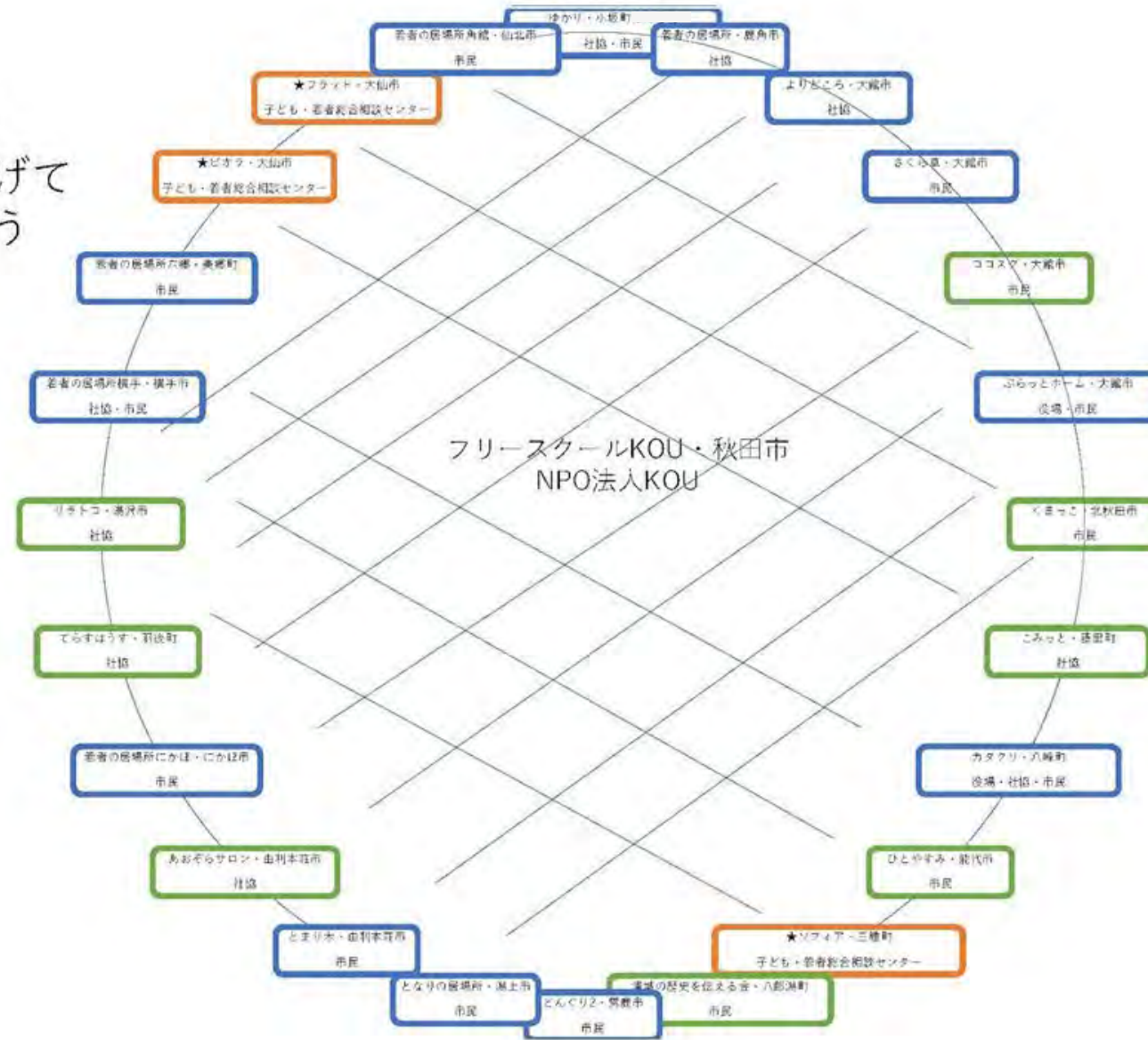




八峰町 ブラックサンドビーチ 海岸清掃 黒い砂の海岸です



秋田県内  
居場所同士  
ゆるやかな  
ネットを広げて  
うけとめよう



# りそな YOUTH BASE【民民連携】

事業の実施機関	埼玉りそな銀行
対象地域	埼玉県越谷市

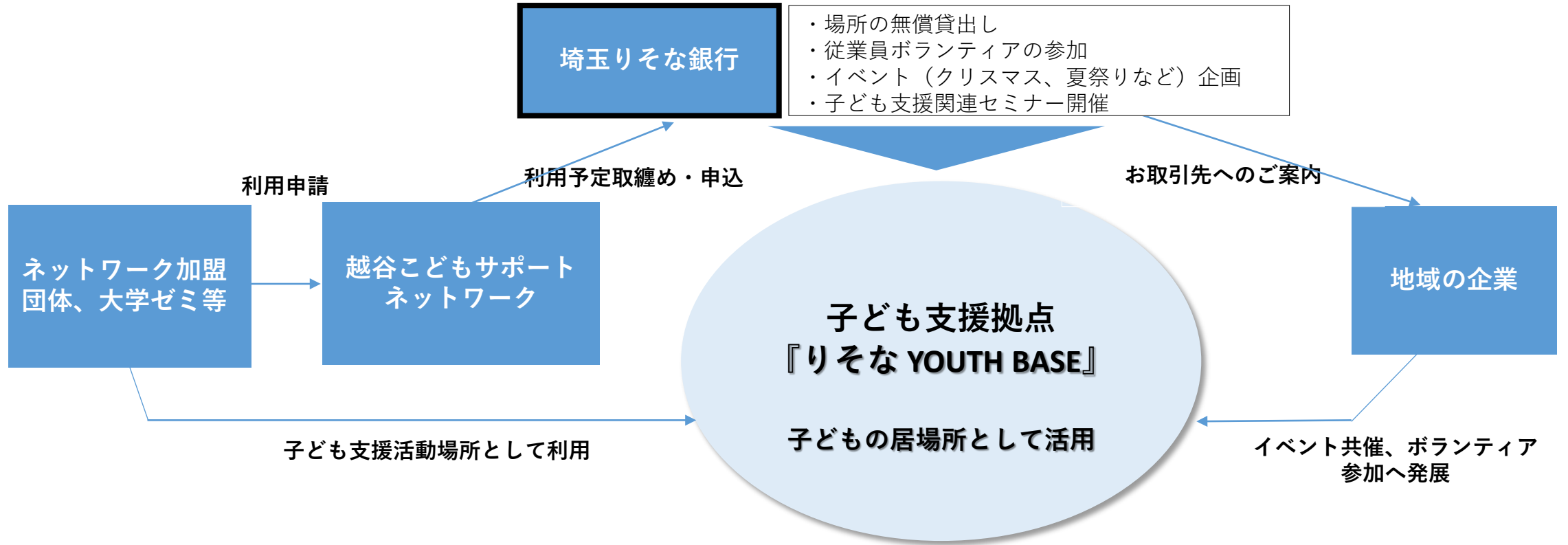
連携先の実施機関
越谷こどもサポートネットワーク

取組の内容	
<a href="https://www.resona-gr.co.jp/holdings/news/hd_c/detail/20221017_2753.html">https://www.resona-gr.co.jp/holdings/news/hd_c/detail/20221017_2753.html</a> <a href="https://koshigaya-kodomo-support-network.studio.site/about">https://koshigaya-kodomo-support-network.studio.site/about</a>	
取組みの内容	<p>未来を担う子どもたちの居場所づくりを目的に、埼玉りそな銀行せんげん台支店（埼玉県越谷市）内に設置。空きスペースを外から入れるように整備したもので、事前に利用登録をした地域の子ども支援団体へ無償で貸出しし、学習支援等にご利用いただいています。銀行の従業員ボランティアが参加するほか、地域のお客さまと連携した子ども向けイベント、子ども支援団体と企画した子ども企画型のイベント、子ども支援をテーマとしたセミナー等も企画・実施しています。</p>
取組にあたって苦労、苦慮した内容	-
取組みの効果	<p>2022.10開設以降、地域で活動する複数の子ども支援団体にご利用いただくことで、子どもの居場所となりつつある状況。今後も子ども支援団体と協力し、居場所づくりを進めていきます。</p>

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
●			●	●	●						53

# 子ども支援拠点「りそな YOUTH BASE」運営体制

未来を担う子どもたちの居場所づくりを目的にせんげん台支店（埼玉県越谷市）内に設置。学習支援や親子向けイベントを実施する子ども支援団体へ無償で貸出しするほか、子ども支援をテーマとした各種イベントも企画・実施している。



埼玉県5か年計画の下記の取組みを後押し

子供の居場所の数

380 か所 (令和2年度)

▶ 800 か所以上 (令和8年度)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0102/5-keikaku/04-index.html>



# ウエルシア薬局株式会社との「地域福祉の推進及び健康増進に関する協定」に係る移動販売事業【官民連携】

事業の実施機関	行田市
対象地域	行田市

## 連携先の実施機関

行田市（地方公共団体）、ウエルシア薬局株式会社（株式会社）、社会福祉法人 行田市社会福祉協議会（社会福祉法人）、地域包括支援センター、自治会、民生委員、障がい者施設、高齢者施設等

## 取組の内容

[https://www.city.gyoda.lg.jp/soshiki/kenkouhukushibu/tiiki\\_kyosei\\_syakai/gyomu/sonota/9508.html](https://www.city.gyoda.lg.jp/soshiki/kenkouhukushibu/tiiki_kyosei_syakai/gyomu/sonota/9508.html)

### 取組みの内容

行田市とウエルシア薬局株式会社が、公民連携を通し、人と人、人と資源がつながる仕組みを構築するもの。移動販売によって地域の買い物課題の解決を図りながら、併せて移動販売を通じた地域コミュニティの創出も目的とするもの。ウエルシア薬局株式会社の専門職による講座などによる住民の健康増進や、移動販売による買い物課題の解消や見守りといった地域課題の解決、地域の活性化など地域福祉の推進を図り、もって地域共生社会の実現を図っています。

### 取組にあたって苦労、苦慮した内容

自治会や民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会などから意見を聞きながら、周辺の商店の状況等も踏まえて販売が必要そうな場所の当たりをつけ、販売場所選定を進めましたが、集会所等の移動販売車の乗り入れに適した場所が存在しない地区も多く、調整に苦慮しました。

### 取組みの効果

取組により、地域の買い物課題が解決されるだけでなく、定期的な外出機会や人と会う機会が創出され、交流の楽しみや孤独・孤立の軽減に寄与しています。また、地域に住む多様な方々の相互理解、介護予防といった様々な効果が生まれるとともに、障がい福祉サービス事業所による生製品の販売などを行い、社会参加の機会を創出しています。

## ライフステージの区分

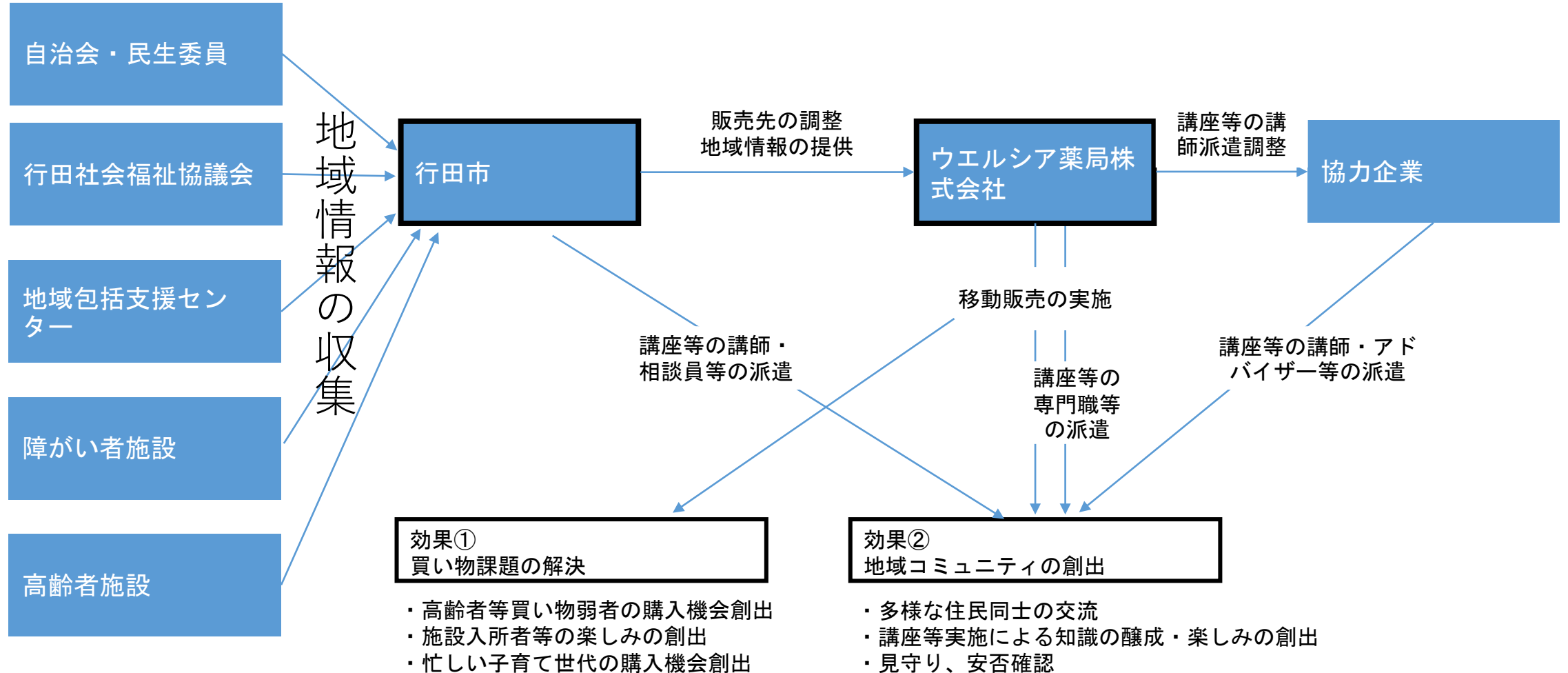
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
											●





# ウエルシア薬局株式会社との「地域福祉の推進及び健康増進に関する協定」に係る移動販売事業 実施体制

移動販売により買い物課題の解決を図るとともに、地域コミュニティの創出を図り、もって孤独・孤立の軽減に寄与する。





# 子どもたちが受ける性暴力被害の連鎖を断ち切る！【民民連携】

事業の実施機関	ドゥーラシップジャパン
対象地域	全国

連携先の実施機関
日本フォレンジックヒューマンケアセンター（一般社団法人）、全国養子縁組団体協議会（一般社団法人）、静岡大学白井千晶研究室（国立大学法人）

取組の内容	
<a href="https://www.doulashipjapan.org/survivor">https://www.doulashipjapan.org/survivor</a>	
取組みの内容	全国の性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの相談件数令和元年以来毎年15%以上増加しているなど深刻です。性暴力被害を受けた人たち（サバイバー）は、相談しにくい・理解してもらえないなど、多くの場合孤立しがちになり社会的支援を受けにくい状況があります。この事業ではサバイバーが妊娠出産する際に、心身のサポートや情報提供などを通じて継続的にサポートします。性的被害にあった人がその後の人生で再度暴力の被害にあうことを防ぎ、サバイバーが妊娠・出産する際に「大切にケアされた」と感じられるケアにつなげるために、①性暴力被害者の妊娠出産に関する支援者の研修、②他機関との連携による妊娠・出産サポートの実現、③性暴力とその被害者の支援に関する情報発信を行います。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	性暴力被害についての実態調査や被害者支援についての報告等はあるが、性暴力被害を受けたことのある人が、妊娠・出産する際にどのような心身の影響がみられるか、そしてそのような影響があったときのケアの仕方についての日本での報告がほとんどないことから、ニーズの把握に苦労しています。また、出産に付き添うドゥーラという存在についても知られていないことから、医療者にドゥーラを受け入れてもらうのが難しい。これらはまだまだ継続中の課題です。
取組みの効果	まだ取組みを始めたばかりですが、これに先立つ活動として性暴力を受けた人の出産に関する2冊の翻訳書を刊行しました。それを用いて精読会（9回）やシンポジウムを開き、延べ445名が参加しました。これにより関係者の学びを深めたり、横のつながりを広げられました。参加者からは「性暴力を受けた人に良いケアは万人に良いケア」だということを理解したり、性暴力を受けた人かもしれないと思って接することの大切さを知ったという声をもらっています。今後更に研修の機会や現場での支援のケーススタディを重ねて効果を測っていく予定です。

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
●							●				● 58





プロジェクトマネジメント、  
出産ドゥーラの質と量の確保、  
ドゥーラへの支援

ドゥーラシップ  
ジャパン  
(DSJ)

ドゥーラマッチング

日本フォレンジック  
ヒューマンケアセン  
ター  
(NFHCC)

クライアント窓口、  
ドゥーラ派遣、  
クライアントの心理ケア  
協力：片岡笑美子  
江口美智

研究チーム：白井千晶（リーダー）  
長江美代子  
（クライアントインタビュー、アンケート分析）  
杉本敬子  
（クライアントインタビュー、アンケート分析、  
セミナー実施）  
木村章鼓  
（計画、実施、研修講師）  
宇津澤紀子  
（計画、実施）

協力：伊東清恵（ファシリテータ）  
松野千恵（ファシリテータ）  
薬師寺麻利子（講師、ファシリテータ）  
三輪知子（ドゥーラの心理相談）



妊娠出産  
する人  
(クライアント)

クライアントの照会、  
養子縁組のサポート

全国養子縁組  
団体協議会

妊娠出産する人  
(NFHCC・全国養子縁組団体協議会で  
事前スクリーニング)

出産ドゥーラとマッチング  
(NFHCC・DSJ)

妊娠・出産サポート

事前・事後アンケート、  
インタビュー

分析・結果報告

必要に応じて  
クライアント、  
ドゥーラの心理  
サポート

## DSJ研究チーム体制



# 移動スーパー「とくし丸」を活用した高齢者の見守り【官民連携】

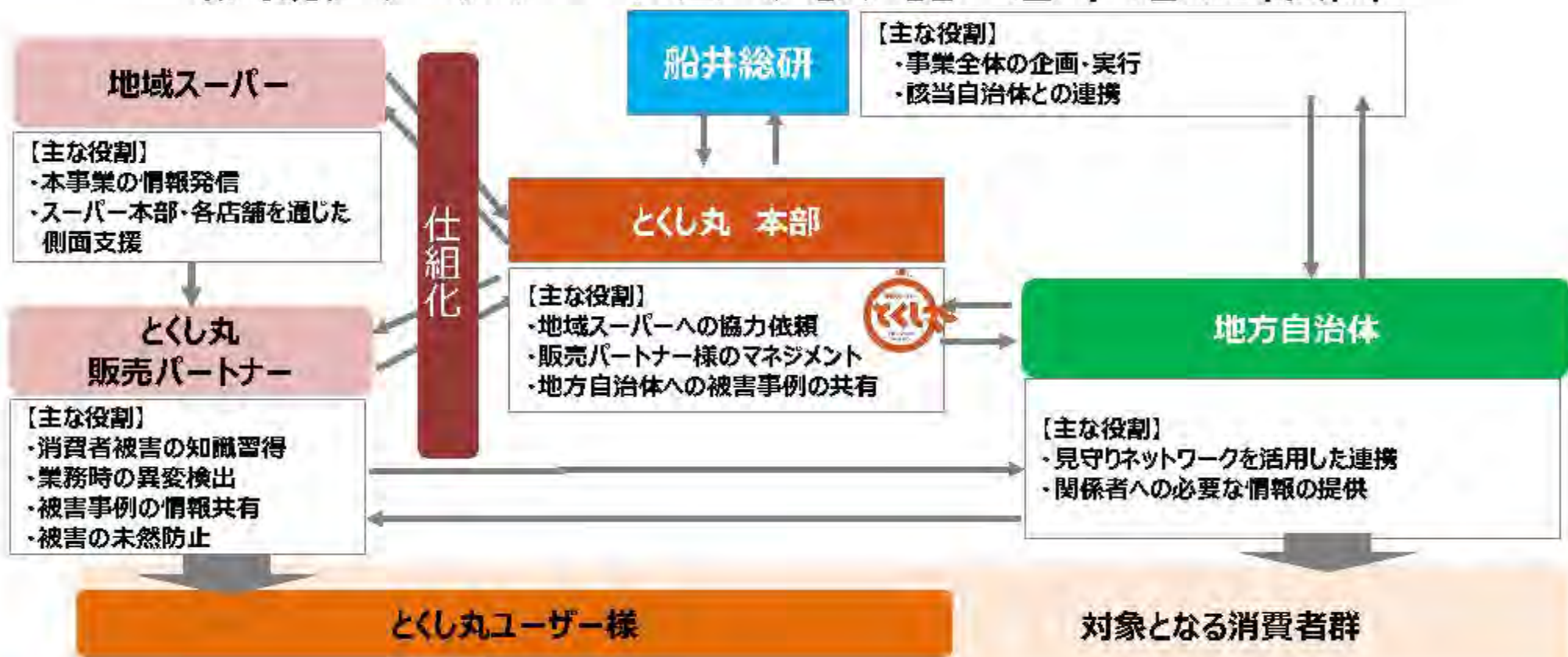
事業の実施機関	株式会社とくし丸
対象地域	新宿区

連携先の実施機関
消費者庁（省庁）、東京都新宿区（地方公共団体）、鹿児島県奄美市（地方公共団体）、徳島県徳島市（地方公共団体）、秋田県秋田市（地方公共団体）

取組の内容	
<a href="https://www.tokushimaru.jp/">https://www.tokushimaru.jp/</a>	
取組みの内容	<p>移動スーパーとくし丸が各地方公共団体と「高齢者の見守り協定」という包括的な協定を締結し、消費者安全法に基づく消費者安全確保地域協議会（見守りネットワーク）を活用した高齢者の見守り活動を実施しています。具体的には、移動スーパーによる買い物支援を通じて、高齢者の健康状態の把握、買い物の機会を活用した消費者被害等の啓発活動、孤立させないコミュニティの形成を、とくし丸の販売パートナーが実施。地方公共団体は、日常的に見守り対象者となる高齢者とコンタクトを取る民間事業者を活用することで、消費者被害の未然防止などの効率的な見守り活動の実施につながっています。</p>
取組にあたって苦労、苦慮した内容	<p>前例のない取組であり、かつ結果の可視化がし辛い消費者被害の防止策であるため、スピード感を持って官民連携を行うことが大きな課題でした。また、地方公共団体の担当部署と関連部署との連携や、地方公共団体の既存の施策との調整が先駆的なアクションへの課題となっており、施策を立案する段階から民間事業者が参加することで、到達すべき目標に向けての効率的な施策の構成が期待されています。</p>
取組みの効果	<p>とくし丸では、買い物を通じた販売パートナーと利用する高齢者とのコミュニケーションにより、高齢者を孤立させない仕組みを構築・推進しています。新宿区との取組では、地方公共団体と意見交換の場を複数回設けるなど、官民連携に向けた進展が見られました。また、多くの消費者被害の実態把握ができ、「利用者自身が情報提供を行うことで、新たな被害の防止につなげよう」という意識を持っていただけた」という内容も報告されるなど、利用者への啓発活動につながりました。</p>

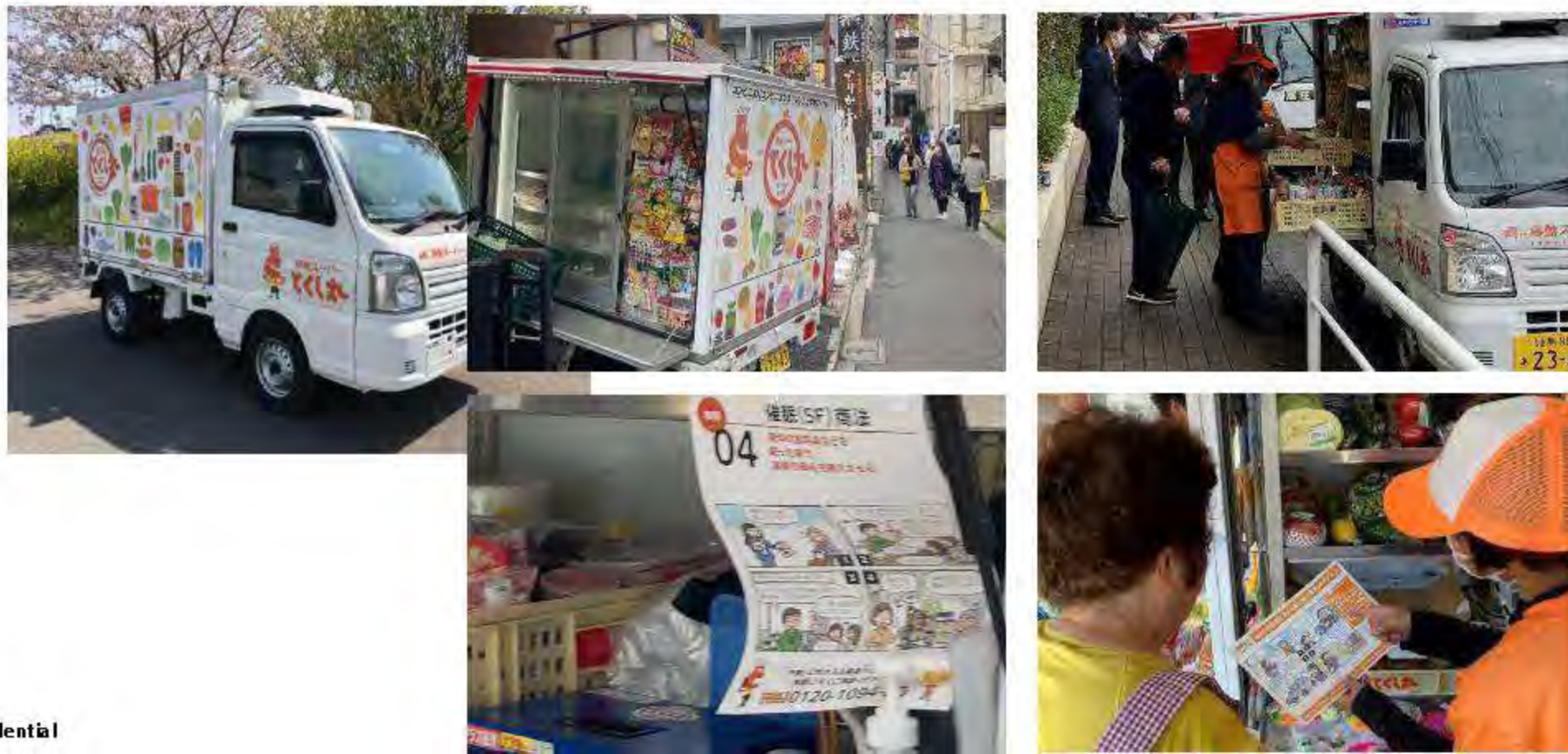
ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
										●	61

昨年度のモデル事業では、ネットワークの官民連携部分をより促進させることを目的に移動スーパー「とくし丸」を中心に設計





活動はとくし丸のドライバーが中心に実施  
本部で情報を集約し、適宜対応することで  
自治体との連携を図っている。





官民連携の実施地域は合計 9 地域に及び  
6000件以上のヒアリング、300件以上の事例報告  
が上がっている。

第1期（2022年7月1日～9月30日）全2地域

	東京都 新宿区	鹿児島県 奄美市	徳島県 徳島市	秋田県 秋田市	長野県 松本市	長野県 長野市	山形県 新庄市	青森県 八戸市	千葉県 船橋市
法定協議会の有無	有	有	有	×	×	有	×	有	有
とくし丸と自治体との 協定	有	有	有	有	有	有	有	有	有
販売パートナー数	2名	2名	1名	1名	2名	1名	1名	1名	1名
事例報告数（1期） （ ）内はヒアリング総数	49件 (1027)	25件 (1380)	—	—	—	—	—	—	—

第2期（2022年10月1日～12月31日）全9地域

	東京都 新宿区	鹿児島県 奄美市	徳島県 徳島市	秋田県 秋田市	長野県 松本市	長野県 長野市	山形県 新庄市	青森県 八戸市	千葉県 船橋市
事例報告数（2期） （ ）内はヒアリング総数	28件 (1172)	9件 (861)	45件 (249)	47件 (352)	37件 (1818)	37件 (688)	17件 (1101)	28件 (461)	11件 (125)



積込品数

約400種類

1200点以上





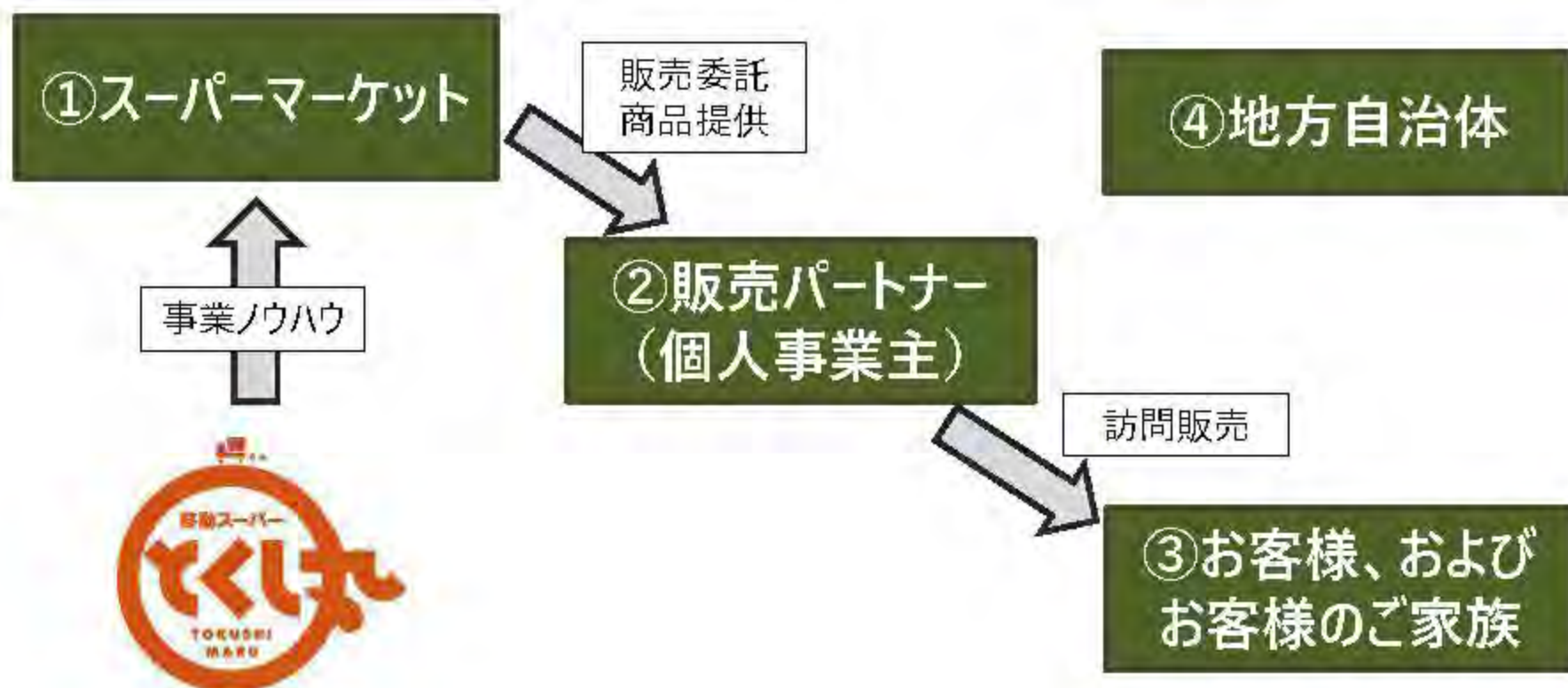
# とくし丸×東京都新宿区 官民連携のヒミツ 徹底解剖！Q1





## とくし丸×東京都新宿区 官民連携のヒミツ 徹底解剖！Q1

- ・BtoBtoBtoCのモデルとなっており、各プレイヤーが強みを活かし事業を作っている。
- ・強みを発揮できている場合には、良い結果が出やすいビジネスモデル。



# とくし丸×東京都新宿区 官民連携のヒミツ 徹底解剖！Q2


・わざわざ「見守っている」というアクションを起こすのではなく、、、  
**楽しい買い物体験に、自然に見守られているという形でアクションを付加する。**

- ... 通常見守り業務
- ... 見守り報告業務

事案発生の場合  
アナログレポート  
作成

見守り  
完了

**17時頃**  
**配達完了・スーパーに到着**  
 拠点となるスーパーマーケットに到着後、残った生鮮食品の返却や車両の清掃等を行います。  
 商品を下ろしたら、売上金の精算を行い、一日の業務が終了します。



**協力先スーパーマーケット**  
 ・地域のスーパー各社

**10時頃**  
**商品の入荷・選別・出発**  
 スーパーマーケットに到着し、その日に販売予定の商品の入荷を行います。商品を選んだら、車両への積み込みを行い、訪問先の家庭に向けて、出発します！



見守り  
準備

**10時～17時**  
**各家庭への訪問・販売活動の実施**



移動中の  
地域内  
見守り

移動中の  
地域内  
見守り



事案発生の場合、通報

**各家庭**

個別家庭  
でのデータ  
収集

チェック項目で  
見守り

**各家庭**

個別家庭  
でのデータ  
収集



# いのちをつなぐネットワーク【官民連携】

事業の実施機関	北九州市
対象地域	北九州市

連携先の実施機関
別添チラシのとおり <a href="https://drive.google.com/file/d/1bEDobZYwLnA6HCciAlq_5-Stk50ZlLc0/view?usp=drive_link">https://drive.google.com/file/d/1bEDobZYwLnA6HCciAlq_5-Stk50ZlLc0/view?usp=drive_link</a>

## 取組の内容

[https://www.city.kitakyushu.lg.jp/ho-huku/file\\_0471.html](https://www.city.kitakyushu.lg.jp/ho-huku/file_0471.html)

取組みの内容	<p>「いのちをつなぐネットワーク」とは、住民と行政の力を結集し、地域における既存のネットワークや見守りの仕組みを結びつけ、セーフティネットの網の目を細かくしていくことによって、高齢者のみならず、支援を必要としている人が社会的に孤立することがないように地域全体で見守り、必要なサービスなどにつなげていくための取り組みです。北九州市では、平成18・19年に相次いで生じた孤立死などの問題を受け、平成20年度から開始しました。</p> <p>この事業では、「支援を必要とする人に対して適切なサービスを提供すること（個別支援）」と「必要なサービスにつなげるまでの気づきや見守りなどの仕組みを確立すること（地域福祉ネットワークの充実・強化）」の2つを目的として取り組みを進めています。いのちをつなぐネットワークでは、市民と接する機会のある企業等の協力による「見守り部会」、地域の人々が安心して買い物できる環境づくりを推進する「買い物支援部会」が一堂に会し、取組事例を共有し、つながりを深める「いのちをつなぐネットワーク推進会議」を開催しており、地域全体で見守る仕組みをさらに推進します。</p>
取組にあたって苦労、苦慮した内容	<p>「地域での見守り・支援体制」を充実・強化するためには、市民と行政と一緒に、地域福祉の面からの地域づくりを推進することが不可欠であり、その役割を担う係長級の職員を「いのちをつなぐネットワーク担当係長」として、平成20年度から各区役所に配置しました。担当係長は、原則小学校区ごとの地域福祉のネットワークを充実・強化するためのコーディネーターとしての役割を果たすとともに、区役所内の連携を強化する役割を担いますが、福祉現場等の経験がない職員が配置されたり、市役所全体の組織体制の見直しなどの影響で、制度開始当初は想定されていなかった業務を担当するようになるなど、本来の機能が十分発揮しづらくなっています。</p>
取組みの効果	<p>民生委員・児童委員からは、「困った時に連絡・相談できるので、安心して活動ができるようになった」「行政への信頼が増し、行政との連携が強まった」「気になる世帯や支援が必要な世帯を把握しやすくなった」といった評価を得ています。また、いのちをつなぐネットワーク推進会議での事例発表などを通し、他団体の活動を知ることで相互理解が深まっています。</p>



ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
											●

# いのちをつなぐネットワークのイメージ

～ 地域で「見つける・つなげる・見守る」～







# みんなで 見つける

“おはよう” “こんにちは”  
日頃から声をかけあいましょう。



“大丈夫ですか”

心配な人がいた場合、民生委員や  
区役所に相談してください。



# 見守る

“元気にしていますか”

地域の高齢者を  
さりげなく見守りましょう。

## 北九州市 いのちをつなぐネットワーク

北九州市保健福祉局

気になる異変を見つけたら…

### 気になる異変の例

病気や怪我の状態で、  
そのままでは  
生命に危険が生じると思われる場合

その他、  
「普段と違う」異変に気づいた場合

訪問しても応答がなく、安否が心配

- 最近姿を見ない・元気が  
ない・顔色が悪い。
- 郵便物・新聞が  
溜まっている。
- 洗濯物が干しっぱなし。

### 通報先

すぐに 消防へ  
救急車 **119** 番

区役所へ 各区保健福祉課  
いのちをつなぐネットワーク係

区役所の保健福祉課は、保健・福祉・医療に関する  
様々な相談を受けています。

- 門司区 ☎ 331-1887
- 小倉北区 ☎ 582-3440
- 小倉南区 ☎ 951-4124
- 若松区 ☎ 761-3078
- 八幡東区 ☎ 671-3022
- 八幡西区 ☎ 642-1334
- 戸畑区 ☎ 871-0855



高齢者のための「地域包括支援センター」  
総合相談窓口  
＼ご家族や地域の方からの相談も受け付けています！



### いのちをつなぐ ネットワークとは

高齢者をはじめ、支援を必要と  
している人が社会的に孤立するこ  
とがないよう地域全体で見守り、  
必要なサービスなどにつなげてい  
くための取組です。

あなたもかけがえない北九州市  
の見守りチームの一員です。できる  
ことから始めましょう。



警察・消防関係機関

連携

区役所・市役所の様々な部門

地域の中で  
心配な人がいたら  
ご相談下さい。

いのちをつなぐネットワーク担当係は、地域  
の福祉活動を前向きでサポートします。



お問合せ先

北九州市保健福祉局 地域福祉部 地域福祉推進課

☎ 093-582-2060



# 参加いただいている 協力会員の皆様(見守り部会)

## ライフライン

- 電気**
- 九州電力株式会社 北九州支店
  - 九州総合サービス株式会社 北九州支社
  - 株式会社九電工 北九州支店
  - 一般財団法人九州電気保安協会 北九州支部

- ガス**
- 西部ガス株式会社
  - 西部ガス・カスタマーサービス株式会社 北九州事業部
  - 北九州エルピーガス事業協同組合

- 上下水道**
- 北九州市上下水道局 上下水道お客さまセンター (受託会社:第一環境 ケイ・イー・エス 共同企業体)
  - 一般社団法人 北九州市環境保全協会

## 新聞社・マスコミなど

- 北九州読売会
- 一般社団法人 福岡県朝日会
- 毎日新聞 北福連合会
- 株式会社リビングプロシード

## 郵便・宅配など

- 日本郵便株式会社 北九州中央郵便局
- 日本郵便株式会社 小倉志井郵便局
- ヤマト運輸株式会社 北九州主管支店
- 佐川急便株式会社 北九州営業所
- 佐川急便株式会社 八幡西営業所

## タクシー

- 第一交通産業株式会社

## 生活協同組合

- エフコープ生活協同組合
- グリーンコープ生活協同組合 ぶくおか北九州地域本部

## 飲料・食事宅配など

- 北九州ヤクルト販売株式会社
- 中央福岡ヤクルト販売株式会社
- 株式会社ビッグベアーズフーズサービス
- けんたくん 小倉本店
- 布亀株式会社

## 飲食

- 株式会社アクティブ・ライフ・サポート
- 竹末米穀店

## コンビニエンス・ストア、スーパーマーケット

- 株式会社セブン-イレブン・ジャパン
- 株式会社ファミリーマート
- 株式会社ポプラ
- 山崎製パン株式会社 デイリーヤマザキ事業統括本部
- 株式会社ローソン
- イオン九州株式会社 イオン戸畑店
- 株式会社サンリブ
- 株式会社西鉄ストア

## 暮らしに関するサービス

- 福岡県クリーニング生活衛生同業組合 北九州ブロック協議会
- 株式会社ニットー
- 株式会社ウチャマホールディングス
- 株式会社さわやか倶楽部
- 株式会社ボナー
- NPO法人九州くらしサポート
- 総合警備保障株式会社 北九州支社
- 株式会社ポラ 北九州ユニット
- ライフサポート
- NPO法人是空
- 株式会社コンピュータサイエンス研究所
- 株式会社みんなの社会

## 住まいに関するサービス

- 株式会社URコミュニティ
- 北九州市住宅供給公社 管理第二課
- 株式会社不動産中央情報センター
- 日本エスエム株式会社
- 株式会社日鉄コミュニティ
- 日本ハウズイング株式会社 北九州支店

## 金融機関など

- 福岡ひびき信用金庫
- 三井住友海上火災保険株式会社 北九州MSA
- 住友生命保険相互会社 北九州支社
- 明治安田生命保険相互会社 北九州支社
- 第一生命保険株式会社 北九州総合支社

## 冠婚葬祭

- 株式会社サンレー
- 株式会社阿部光林社 青山斎場・家族葬のこうりん

## 地域のボランティア・団体

- 北九州市自治会総連合会
- 北九州市民生委員児童委員協議会
- 北九州市婦人会連絡協議会
- 一般社団法人北九州市老人クラブ連合会
- 北九州市食生活改善推進員協議会
- NPO法人老いを支える北九州家族の会
- 認知症・草の根ネットワーク
- 北九州NPO研究交流会
- 特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲイン
- 公益財団法人北九州市シルバー人材センター

## その他関係機関

- 公益社団法人北九州市医師会
- 公益社団法人北九州市薬剤師会
- 公益社団法人北九州市歯科医師会
- 各区保健・医療・福祉・教育・地域連携推進協議会
- 福岡県弁護士会 北九州部会
- 社会福祉法人北九州市社会福祉協議会
- 福岡県警察本部 生活安全総務課
- 福岡県警察 北九州市警察部 機動警察隊

児童相談所  
虐待対応  
**ダイヤル**  
通話料無料

子供の虐待の相談・連絡先  
**いちやく**  
**189番**

お住まいの地域の  
児童相談所に  
つながります。

## いのちをつなぐネットワーク推進会議は、

平成28年度から「見守り部会」と「買い物支援部会」の2部会制として開催し、企業・団体の連携を図っています。「買い物支援部会」は、高齢者等が安心して買い物できる環境づくりを推進する『買い物応援ネットワーク推進事業』に協力しています。

